
日本地球化学会ニュース

No .170

2002 .8 .1

主な記事

●学会記事

- 2002年度日本地球化学会年会の最終案内及びプログラム
- 鳥居基金の募集について（実施期間の変更）
- 日産学術研究助成は財団直接応募に変更
- 科学研究費補助金を申請しましょう
- 評議員会，研連，各種委員会議事録

●その他のシンポジウム，人事公募等の各種情報のお知らせ

現在，日本地球化学会のホームページを国立情報学研究所ホームページ内の学協会情報発信サービスの中で公開しております。研究助成，シンポジウム，人事公募等の各種情報は随時更新しておりますのでそちらをご覧ください。

URL アドレスは，<http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj2/index.html> です。

また，独自ドメイン名を取得いたしましたので，暫定的ですがこちらも公開中です。

URL アドレスは，<http://www.geochem.jp/>です。

2002年度 日本地球化学会年会 (50周年記念年会)の最終ご案内

主催：日本地球化学会

共催：日本化学会

後援：鹿児島観光コンベンション協会

会期：2002年9月26日(木)～9月28日(土)

25日(木)午後には日本地球化学会創立50周年記念公開講演会(一般市民向け)

会場：鹿児島大学郡元キャンパス(総合教育研究棟、共通教育棟、稲盛会館)

内容：記念公開講演会(一般市民向け)、一般講演、学会賞等受賞講演、50周年記念講演

記念公開講演会：9月25日(木)(一般市民向け)

「豊かさや環境 かけがえのない地球を救おう」

講演者：北九州市立自然史博物館長・小野勇一

鹿児島大学理学部教授・坂元隼雄

(後援：鹿児島県、鹿児島市、(財)鹿児島県環境技術協会)入場無料。どなたでもお気軽にお越しください。

一般講演発表分野：大気/降水、岩石/地殻、鉱床、有機物、陸水、温泉/熱水、地球外物質、海洋、堆積物、環境、その他

一般講演発表形式：

口頭発表(討論を含めて15分)

ポスターセッション(180cm×90cm)

ポスターセッション第1日目は、9月26日に総合教育研究棟で行います。ポスターは当日午前中に掲示していただき、同日午後6時までに撤去していただきます。第2日目は、9月27日に稲盛会館で行います。ポスターは当日午前中に掲示していただき、同日午後5時までに撤去していただきます。掲示用のピンは会場受付に用意いたします。

50周年記念事業9月27日(金) 会場：稲盛会館

50周年記念講演：午前11時～午後0時30分

50周年記念顕彰：午後1時30分～2時30分

総会：午後2時30分～3時30分

学会賞等受賞講演：午後3時30分～5時30分

懇親会：9月27日(金)午後6時～7時30分(鹿児島大学生協中央食堂)

参加登録費、懇親会参加費等

1. 参加登録費(講演要旨集1部+送料を含む)：

予約申し込み(2002年8月30日まで)

会員：5,000円、学生会員：3,000円、

会員外：7,000円、学生会員外：4,000円

当日受付

会員：6,000円、学生会員：4,000円、
会員外：7,000円、学生会員外：4,000円

2. 懇親会参加費：

予約(2002年8月30日まで)

一般：5,000円、学生：3,000円

当日：6,000円

3. 講演要旨集(当日販売)：3,000円/部

講演要旨集(送料込み)：3,500円/部

4. 参加費、講演要旨集代、懇親会費の支払方法

郵便振替にて送金(送金内訳を明記)

(郵便振替受領証をもって領収書とする。別途領収証を必要とする場合、大会当日に受付に申し出のこと)

郵便振替口座：01760 5 59202

加入者名：日本地球化学会2002年実行委員会

参加申し込み等の日程：

参加予約申し込み締め切り：2002年8月30日(金)

参加申し込み方法：

ホームページ上からの受付に限らせていただきます。年会ホームページ

(<http://www.sci.kagoshima-u.ac.jp/~chikyuu/>)より、所定の書式に従って送信してください。なお、ホームページからの申し込みが困難な方は、下記の申し込み問い合わせ先(米田・小林)に締め切りの一週間前までにお問い合わせください。

宿泊・航空券等の予約問合せ先：

鹿児島大学生協同組合 コープガイド店

地球化学会年会宿泊係 担当 高村

Tel: 099 257 6708, Fax: 099 258 9314

e-mail: guide@coop.knit.kagoshima-u.ac.jp

参加予約申し込みに関する問い合わせ：

米田成一・小林貴之(学会ホームページ担当)

Tel: 03 3364 7142, Fax: 03 3364 7104

e-mail: nenkai2002@geochem.jp

年会連絡先：

〒890 0065 鹿児島市郡元1丁目21 35

鹿児島大学理学部地球環境科学科内

2002年度 日本地球化学会年会実行委員会

大会委員長 坂元隼雄

事務局 穴澤活郎(年会ホームページ担当)

会計 富安卓滋

Tel: 099 285 8110, Fax: 099 259 4720

e-mail: chikyuu@sci.kagoshima-u.ac.jp

9月25日(水)

会場	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
稲盛会館	50周年記念講演 (一般市民向け)										
大講堂											

9月26日(木)

会場	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
総合教育研究棟 共通教育棟	A	陸水			温泉/熱水						夜間小集会
	B	海洋	海洋		海洋	堆積物					
	C	大気/降水	大気/降水		大気/降水	鉱床					
	D	岩石/地殻	岩石/地殻		岩石/地殻						
	P										ポスター(1)

ポスター掲示は午前9時から午後6時までです。

9月27日(金)

会場	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
稲盛会館	50周年記念講演										
大講堂						記念顕彰	総会	受賞講演			
ポスター		ポスター(2)									
中央食堂	懇親会										

ポスター掲示は午前8時30分から午後5時までです。

9月28日(土)

会場	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
総合教育棟	A	地球外物質	地球外物質			地球外物質					
	B	堆積物	堆積物			有機物					
	C	その他	その他			環境					

2002年度 日本地球化学会年会(50周年記念年会) 時間割

会場へのアクセス方法（所要時間・料金はあくまでも目安です。）

鹿児島空港 ⇒ JR 西鹿児島駅

リムジンバス: 約 50 分, 1,200 円

タクシー : 約 40 分, 10,000 円 (高速料金込み)

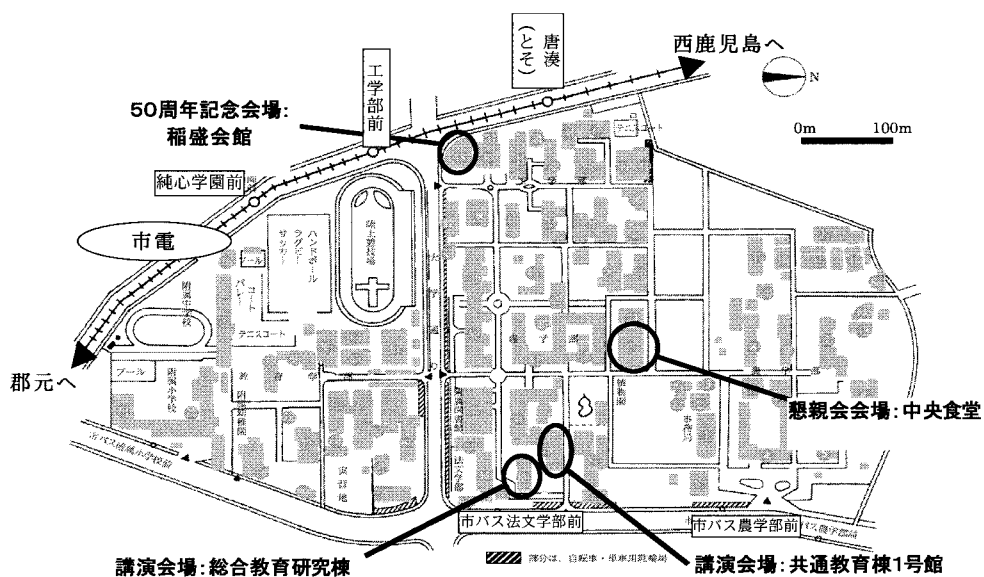
JR 西鹿児島駅 ⇒ 鹿児島大学郡元キャンパス

市電: 工学部前あるいは唐湊電停下車, 約 10 分, 160 円

タクシー: 約 5 分, 約 640 円

徒歩: 約 25 分

* タクシーをご利用の際は「郡元(こおりもと)キャンパス」と指定してください。



会場地図: 鹿児島大学郡元(こおりもと)キャンパス

第1日(9月26日)口頭発表 午前

[A会場]

[陸水]

(9:00~11:30)座長:大井隆夫・渡久山章

- 1A01 ホウ酸とホウ酸イオンとの間の同位体交換平衡に及ぼす水と多量体生成の影響(1上智大学大学院理工学研究科化学専攻・2上智大学理工学部化学科)○山比羅守¹・大井隆夫²
- 1A02 阿蘇カルデラ南郷谷地域における地下水の硫黄同位体組成の分布(1九州大学大学院理学府・2九州大学大学院理学研究院・3岡山大学固体地球研究センター)○垣岡武範¹・石橋純一郎²・千葉仁³
- 1A03 土壌水の酸素・水素安定同位体比の形成過程に関する考察(1筑波大学地球科学研究科・2筑波大学地球科学系)○藪崎志穂¹・田瀬則雄²
- 1A04 庄川扇状地地下水の硝酸濃度とその季節変化(富山大学理学部)○佐竹洋・宮本法子・道島佳奈
- 1A05 乗鞍火山地域における陸水中の陽イオン挙動:岩石水相互作用の視点(1鹿児島大学理学部・2東京大学新領域創成科学研究科)○穴澤活郎¹・坂元隼雄¹・富安卓滋¹・大森博雄²
- 1A06 大阪府南部地域の地下水中のヒ素濃度の季節変化について(大阪府立大学大学院理学研究科)○大野雅子
- 1A07 大山中腹に湧出する地下水の流動系(1金沢大学・2神戸大学・3島根県産業技術センター)○井上睦夫¹・中村昇²・小林俊則²・大谷恵子²・中島剛³・小村和久¹
- 1A08 丹沢山地・河川水の地球化学的特徴(1横浜国立大学大学院環境情報学府環境生命学専攻・2横浜国立大学環境情報研究院・3横浜国立大学教育人間科学部)○安達佳奈¹・有馬真²・中村菜子³・村山治太³
- 1A09 淀川水系における富栄養化関連物質の挙動とその季節変化(近畿大学理工学部)○山口善敬・中口讓・葵野善行・今中麻幸代・有井康博
- 1A10 硫酸酸性土を通ってきた水の河川水化学組成に対する影響(1琉球大学理工学研究科・2琉球大学理学部)○Said Ali Vuai¹・渡久山章²

[B会場]

[海洋]

(9:00~12:00)座長:大森保・中山英一郎・鈴木欸

- 1B01 ²³⁴U-²³⁰Th および ²²⁸Ra-²²⁸Th 放射非平衡から推定される東部インド洋における粒子フラックス(海洋研究所)○大久保綾子・野崎義行
- 1B02 イミノ酢酸系キレート樹脂濃縮-化学発光法を用いた海水中マンガンの自動分析(1滋賀県立大学・2東京大学)○土井崇史¹・丸尾雅啓¹・中山英一郎¹・小畑元²
- 1B03 サンゴ化石類中の希土類元素パターンの特徴(1東京大学理学部・2産業技術総合研究所・3三菱マテリアル KK・4日本分析センター・5韓国資源エネルギー研究センター・6神戸女子大学)○増田彰正¹・上岡晃²・川上紀³・池内嘉宏⁴・李承求⁵・後藤博弥⁶
- 1B04 サンゴ骨格の酸素同位体比に記録された ENSO イベント(東北大学大学院理学研究科)○浅海竜司・山田努・井龍康文
- 1B05 サンゴ礁における生物群集代謝と大気-海洋間の CO₂ フラックス(琉球大学理学部)○北田幸男・渡慶次亮子・藤村弘行・大森保
- 1B06 海底堆積物中自生炭酸塩岩に含まれる炭化水素ガスの炭素同位体比測定(1北海道大学大学院理学研究科・2海洋科学技術センター固体地球統合フロンティア・3海洋科学技術センター深海研究部・4中川町博物館)○井尻暁¹・角皆潤¹・蒲生俊敏¹・坂本竜彦²・斉藤実篤³・末広潔³・疋田吉識⁴
- 1B07 海底地下水湧出と海洋への影響評価(富山大学理学部)○張勁・佐竹洋
- 1B08 海氷の酸素同位体比についての実験(1秋田大学工学資源学部・2北海道大学低温科学研究所・3防災科学技術研究所長岡雪水防災研究所)○松葉谷治¹・河村俊行²・佐藤篤司³
- 1B09 駿河湾の無機溶存炭素同位体比による海水の構造(1静岡大学理学部・2東大原子力総合センター)○土屋理恵¹・和田秀樹¹・鈴木欸¹・松崎浩之²
- 1B10 西部北太平洋におけるNd濃度及び同位体比の分布(1都立大理工学・2東大海洋研・3日大文理)○天川裕史¹・Dia Alibo²・福川清貴³・張勁²・野崎義行²
- 1B11 西部赤道太平洋におけるTh-230フラックスの時空間的変動(1放射線医学総合研究所放射線安全研究センター防護体系構築研究グループ那珂湊支所・2放射線医学総合研究所放射線安全研究センター防護体系)○山田正俊¹・青野辰雄²
- 1B12 東京湾河口域における銀の地球化学的挙動(東京大学海洋研究所海洋無機化学部門)○張燕・野崎義行

第1日(9月26日)口頭発表 午前

【C会場】

【大気/降水】

- (9:00~12:00)座長:松枝秀和・吉田尚弘・坂田昌弘
- 1C01 1997~2001年降水中の化学成分の変動(千葉県・船橋市)(東邦大学理学部)○吉池雄蔵・岡村忍
- 1C02 横浜で観測された酸性雨(1991-2001)(横浜国立大学教育人間科学部理科教講座)○村山治太
- 1C03 2000年長崎・与那国・つくばにおける降下物中のブルトニウム:黄砂の影響について(気象研究所)○廣瀬勝己・五十嵐康人・青山道夫
- 1C04 2000年長崎及びつくばにおける降下物のランタノイド元素パターン-黄砂との関連を中心に(1)武蔵工業大学・2)気象研究所)○本多照幸・柳下智・五十嵐康人・青山道夫・廣瀬勝己
- 1C05 カラマツ林生態系における呼吸起源二酸化炭素の炭素安定同位体比の時間変動と環境要因への対応(国立環境研究所)○高橋善幸・遠嶋康徳・町田敏暢・藤沼康実・井上元
- 1C06 バイオマス燃焼過程で生成する微量気体の同位体解析(1)北海道大学大学院理学研究科・2)東京工業大学大学院総合理工学研究科)○中川書子・角皆潤・小松大祐・山口潤子・蒲生俊敏・山田桂大・尾崎洋子・小川光輝・奈良英樹・吉田尚弘
- 1C07 屋久島西部地域の渓流水の緩衝能に関する研究(1)九大院理・2)福岡県保健環境研究所)○阿久根卓・永淵修・吉村和久
- 1C08 工業都市室蘭における大気浮遊塵の粒度別重金属濃度(1)室蘭工業大学・2)サーモクエスト株式会社)○白幡浩志・尹松・佐々木聡
- 1C09 樹木年輪セルロースの酸素・水素同位体比を用いた水循環変動の解析-北海道・雨龍研究林を例として-(1)北海道大学低温科学研究所・2)地球観測フロンティア研究システム・3)北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)○中塚武・大西啓子・原登志彦・隅田明洋・光石大介・栗田直幸・植村滋
- 1C10 水面捕集法による水銀および他の微量金属の乾性沈着量測定(電力中央研究所)○坂田昌弘・丸本幸治
- 1C11 大気エアロゾル中の低Si含有量個別粒子の起源(山梨県環境科学研)○京谷智裕・奥水達司
- 1C12 大気中酸素濃度の再評価(国立環境研究所)○遠嶋康徳

【D会場】

【岩石/地殻】

- (9:00~12:00)座長:鍵裕之・中井俊一・木川田喜一
- 1D01 MC-ICPMSによる炭酸塩試料のU-Th同位体分析法の検討(東京大学地震研究所)○渡邊裕美子・中井俊一
- 1D02 XAFS法による天然鉱石及び鉄隕石中のOsの化学状態分析(1)広島大学大学院理学研究科・2)鳥取大学工学部物質工学科・3)高輝度光科学研究センター・4)日本原子力研究所・5)京都大学大学院理学研究科地球熱学研究施設)○榎原直樹・高橋嘉夫・奥村和・宇留賀朋也・矢板毅・鈴木勝彦・清水洋・アルカリ金属-希土類元素-硫酸複塩の生成に伴う希土類元素相互分配現象と明礬石の希土類元素パターンとの相関性(上智大学理工学部)○木川田喜一・三國智史・村田有美・大井隆夫
- 1D04 エントロピーの四組効果と希土類元素地球化学(名古屋大学大学院環境学研究科)○川邊岩夫
- 1D05 カルサイト-水溶液間の希土類元素分配に関する実験的研究(名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻)○田中万也・川辺岩夫
- 1D06 キンパーライト:地球深部の化学的環境を探る(東京大学地震研究所)○兼岡一郎
- 1D07 パタゴニア南部, 中期中新世アダカイトに含まれるジルコンの地球化学(1)東大地震研・2)リオデジャネイロ州立大学・3)神奈川県立博物館・4)東工大・5)パタゴニア国立大学・6)東大理・7)つくば大)○折橋裕二・元木昭寿・平田大二・太田努・Haller Miguel・吉田英人・安間了
- 1D08 ハワイ海底火山岩のリーチング実験(1)東京工業大学大学院理工学部地球惑星科学科・2)京都大学大学院理学研究科付属地球熱学研究施設・3)アメリカホノルルピショップ博物館自然科学部・4)海洋科学技術センター-固体地球研究システム・東京工業大学理工学部地球惑星科学科)任鍾元・柴田智之・芳川雅子・Kevin T.M.Johnson・常青・高橋栄一
- 1D09 マリアナトラフにおける海底火山岩の化学組成と火成活動(1)大阪市立大学大学院理学研究科・2)岡山大学固体地球センター)○上野珠実・益田晴恵・古山勝彦・日下部実
- 1D10 ラマン・赤外分光法によるキューボイドダイヤモンド中のメルトインクルージョンに含まれる揮発性物質の検出(1)東京大学大学院理学系研究科・2)ノボニルスク鉱物岩石研究所)○鍵裕之・Dmitry Zedgenizov
- 1D11 下部地殻同化の指標としての火山岩ストロンチウム同位体比(1)九州大学大学院理学研究科地球惑星科学部門・2)九州大学理学部地球惑星科学科)○柳峰・一色弘充
- 1D12 花崗岩間隙水中でのイオンの拡散に及ぼす表面拡散の寄与(1)広島大学大学院理学研究科・2)理化学研究所)○高橋嘉夫・江川智絵・平方亜衣・蛭沼利江子・榎本秀一

第1日(9月26日)口頭発表 午後

【A会場】

【温泉/熱水】

(13:00~16:00)座長:日下部実・松葉谷治

- 1A11 オーストラリア, ビルバラ地域 Mt. Roe 玄武岩の変質と鉄の挙動 (1 鹿児島純心女子大学・2 鹿児島大学・3 Pennsylvania State University) ○根建洋子¹・根建心具²・大本洋³
- 1A12 インド洋ロドリゲス三重会合点、「かいいいフィールド」における熱水ブルームの地球化学 (1 電力中央研究所・2 京都大学・3 北海道大学・4 海洋科学技術センター) ○下島公紀¹・岡村慶²・上妻史宜³・橋本惇⁴・YK01-15 航海乗船研究者一同・蒲生俊敬³
- 1A13 噴火活動による揮発性金属元素の同位体変動 (1 東大地震研・2 ITER, Spain) ○中井俊一¹・中田節也¹・Nemesio Perez²
- 1A14 カメルーン・マヌーン湖のガス抜き事業の開始 (1 岡山大学固体地球研究センター・2 東大理院地殻化学・3 Yoshida CE Office・4 東工大・火山流体研究センター・5 IRGM, Cameroon) ○日下部実¹・長尾敬介²・吉田豊³・大場武⁴・Gregory Tanyileke⁵
- 1A15 パイプ垂下試料採取法によるカメルーンのニオス湖・マヌーン湖における希ガス深度分布 (1 東大理院・2 岡大地球研・3 吉田技術士事務所・4 IRGM Cameroon) ○長尾敬介¹・日下部実²・吉田裕³・Greg Tanyileke⁴
- 1A16 沖縄トラフ伊平屋凹地海底熱水域における溶存メタンのペント間不均一:熱水循環系内における微生物活動の痕跡か? (1 北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻・2 岡山大学固体地球研究センター・3 海洋科学技術センター深海環境フロンティア・4 海洋科学技術センター海洋生態環境研究部) ○中山典子¹・上妻史宜¹・角皆潤¹・蒲生俊敬¹・千葉仁²・稲垣史生³・藤倉克則⁴
- 1A17 沖縄トラフ南部海底熱水系の地球化学的研究 (1 九州大学大学院比較社会文化研究院・2 九州大学大学院理学研究院・3 九州大学大学院理学院・4 九州大学理学部・5 岩手大学農学部・6 海洋科学技術センター) ○山中寿朗¹・石橋純一郎²・岡本和洋³・森本祐介⁴・溝田智俊⁵・藤倉克則⁶
- 1A18 中部沖縄トラフ伊平屋北海底熱水系の熱水組成の経時変化と地理的分布 (1 岡山大学固体地球研究センター・2 九州大学理学部・3 北海道大学理学部・4 九州大学比較文化社会研究科) ○千葉仁¹・石橋純一郎²・片岡聡²・梅木優子²・上妻史宜³・中山典子³・山中寿朗⁴・角皆潤³
- 1A19 南部沖縄熱水および冷湧水生物群集の炭素-窒素-硫黄同位体組成 (1 岩手大学農学部・2 九州大学大学院比較社会文化研究院・3 岩手大学人文社会学部・4 海洋科学技術センター・5 熊本県立大学環境共生学部) ○溝田智俊¹・山中寿朗²・牧陽之助³・藤倉克則⁴・藤原義弘⁴・土田真二⁴・堤裕昭⁵・町山栄章⁴
- 1A20 多連式カスタイト海底湧水採取装置 WHATS の開発と応用 (北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻) ○角皆潤¹・上妻史宜¹・中山典子¹・蒲生俊敬
- 1A21 熱水条件下における堆積物中のアミノ酸の人工海水への溶出と安定性 (1 大阪市立大学大学院理学研究科・2 産業技術総合研究所) ○伊藤美穂¹・Gupta Lallan²・益田晴恵¹・川幡穂高²
- 1A22 熱水溶液の蒸気圧:Wagner-Pruss 式の修正 (兵庫教育大学) ○澁江靖弘

【B会場】

【海洋】

(13:00~14:30)座長:石田知行・前田広人

- 1B13 日本海東縁域にて発見された海底冷湧水系に関する地球化学的研究 (1 北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻・2 富山大学理学部・3 産業技術総合研究所) ○廣田明成¹・蒲生俊敬¹・角皆潤¹・張勁²・山越祐子²・竹内章²・岡村行信³
- 1B14 博多湾で採取された懸濁態有機物の炭素・窒素同位体比 (1 九州大学工学部附属環境システム科学研究所センター・2 (財)九州環境管理協会) ○石田知行¹・有馬立身¹・稲垣八穂広¹・出光一哉¹・川村秀久²・中嶋雅孝²・松岡信明²
- 1B15 表面海水中の Ce,Nd 同位体比 (1 東大海洋研究所・2 都立大院理) ○田副博文¹・天川浩史²・西村和彦¹・野崎義行¹
- 1B16 陸一海洋系における表面堆積物中陸源バイオマーカーの分子レベル炭素・水素同位体組成 (東京都立大学) ○山田祐介¹・カシ嘉人¹・奈良岡浩
- 1B17 富山湾における海底湧水の涵養源と沿岸海洋環境への影響 (1 富山大学・2 北海道大学・3 近畿大学・4 富山県水産試験場) ○鈴木麻衣¹・張勁¹・佐竹洋¹・成田尚史²・有井康博³・藤田大介⁴・小善圭一⁴
- 1B18 富山湾浅海底地下水湧出域におけるメタンの分布 (1 北海道大学大学院理学研究科・2 富山大学理学部) ○亀山宗彦¹・角皆潤¹・蒲生俊敬¹・張勁²・鈴木麻衣²
- 【堆積物】
- (14:30~16:00)座長:相沢省一・山本温彦
- 1B19 鹿児島湾「たざり」海底熱水活動の地球化学的研究 (1 九州大学大学院理学研究院・2 九州大学大学院比較社会文化研究院・3 九州大学大学院理学部・4 海洋科学技術センター) ○石橋純一郎¹・山中寿朗²・中野綾子³・梅木優子³・三宅裕志⁴・橋本惇⁴
- 1B20 鹿児島湾海底堆積物の物理量及び重金属量 (1 鹿児島大学理学部・2 産業技術総合研究所) ○山本温彦¹・丸茂克美²・根建心具¹
- 1B21 鹿児島湾底質の硫黄同位体比の広域変化 (1 九州大学大学院理学研究科・2 鹿児島大学理学部・3 鹿児島純心女子大学・4 東京都立大学理学部・5 産業総合研究所・6 鹿児島大学水産学部) ○矢木定光¹・根建心具²・根建洋子³・奈良岡浩⁴・丸茂克美⁵・前田広人⁶・山本温彦²・坂元隼雄²・富安卓滋²・穴澤活郎²
- 1B22 鹿児島湾底質中ヒ素及びアンチモンの含有量とその分布 (1 鹿児島大学理学部・2 産業技術総合研究所) 坂元隼雄¹・○石山裕美¹・穴澤活郎¹・富安卓滋¹・山本温彦¹・根建心具¹・丸茂克美²
- 1B23 鹿児島湾底質中水銀の化学形及び三次元分布 (1 鹿児島大学理学部・2 産業技術総合研究所) ○江口朋美¹・富安卓滋¹・穴澤活郎¹・坂元隼雄¹・山本温彦¹・根建心具¹・丸茂克美²
- 1B24 鹿児島湾底泥における栄養塩の溶出過程 (鹿児島大学水産学部) ○中島美和子・前田広人

第1日(9月26日)口頭発表 午後

[C会場]

[大気/降水]

(13:00~15:15)座長:豊田栄・中村栄子

- 1C13 大気二酸化炭素の酸素同位体比について(1 秋田大学鉱山学研究所・2 秋田大学工学資源学部)○浦野光周¹・松葉谷治²
- 1C14 窒素循環モデルを用いた対流圏 N₂O アイソポマーの窒素同位体収支の検討(1 財団法人地球環境産業技術研究機構・2 東京工業大学・3 株式会社三菱総合研究所)○徂徠正夫¹・吉田尚弘²・石川正道³
- 1C15 定期航空機観測による上部対流圏のメタン濃度の変動について(1 気象研究所・2 北海道大学)○松枝秀和¹・澤庸介¹・吉川久幸²・石井雅男¹
- 1C16 富士山頂における大気オゾンと一酸化炭素濃度観測(1 気象研究所・2 気象庁)○澤庸介¹・堀之智²・松枝秀和¹・関山剛¹
- 1C17 都市・森林域における土壌からの水銀フラックスと気象要素との関係(電力中央研究所)○丸本幸治・坂田昌弘
- 1C18 微生物によるヨウ素のメチル化と大気への揮発(1 放射線医学総合研究所・2 千葉大学)○村松康行¹・天知誠吾²・笠原瑞代²
- 1C19 2000 年長崎及びつくばにおける ²¹⁰Pb、⁷Be 及びトリウム降下量(1 気象研究所・2 武蔵工業大学)五十嵐康人¹・本多照幸²・柳下智²・○廣瀬勝己¹・青山道夫¹
- 1C20 2001-2002 年冬季の北アルプス山岳地域における積雪の同位体比と化学組成(1 富山大学理工学研究所・2 富山大学理学部・3 富山大学極東地域研究センター)○遠山和夫¹・鶴田元気²・佐竹洋²・高井玄生¹・川田邦夫³
- 1C21 自動車から排出される一酸化二窒素のアイソポマー組成(1 東工大総理工工・2 東工大フロンティア創造セ・3 日本自動車研究所エネルギー環境研究部)○豊田栄¹・荒井慎治¹・山本誠一郎¹・小川光輝¹・吉田尚弘²・秋山賢一³

[鉱床]

(15:15~16:00)座長:吉池雄蔵

- 1C22 塩化コバルト結晶水和物における水素同位体分別(続報)(学習院大学理学部)○垣内正久
- 1C23 鉄鉱床のその場鉄同位体分析(東京工業大学)○平田岳史
- 1C24 東濃ウラン鉱床におけるナチュラルアナログ研究―地層中におけるウラン化学種の熱力学的解析―(1 核燃料サイクル開発機構東濃地科学センター・2 モニターサイエンティフィック)○岩月輝希¹・太田久仁雄¹・アーサー ランディ²・濱克宏¹・天野健治¹

[D会場]

[岩石/地殻]

(13:00~16:30)座長:兼岡一郎・鈴木勝彦・佐野貴司

- 1D13 韓国・済州島に産するマントル捕獲岩の希ガス同位体組成(1 東大院理地殻化学・2 梨花女子大学(韓国)・3 済州大学(韓国))○角野浩史¹・Kim KyuHan²・Yun JungSoo³・長尾敬介¹・野津憲治¹
- 1D14 岩石中の酸化鉱物に含まれる親石元素(名古屋大院環境)○織田周平・田中剛
- 1D15 顕微ラマン分光法による隠岐島後のマントル捕獲岩に含まれる二酸化炭素流体包有物の残留圧力測定とデータの信頼性の検討(東京大学大学院理学系研究科地殻化学実験施設)○川上曜子・山本順司・鍵裕之
- 1D16 新生代後期の Sr 同位体比変動:その原因とヒマラヤ隆起の影響(慶応大学)○柏木洋彦・鹿園直建
- 1D17 深さ 300km のマントル由来かんらん岩のオスミウム同位体組成(京大地熱研)○鈴木勝彦・許継峰
- 1D18 即発ガンマ線分析による火山岩中塩素の定量(1 富士常葉大学・2 立正大学・3 熊本大学)佐野貴司¹・○福岡孝昭²・長谷中利昭³
- 1D19 地球内部での H₂O フリドの化学組成を知るための実験的アプローチ(1 京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設・2 茨城大学理学部地球生命環境科学科・3 カーネギー研究機構・4 スプリング8・5 広島大学大学院理学研究科物理科学科・6 海洋科学技術センター)○川本竜彦¹・松影香子²・三部賢治³・一色麻衣子⁴・西村光史¹・石松直樹⁵・小野重明⁶
- 1D20 中国タラマカン砂漠及び周辺部の風成堆積物、氷河堆積物、河川堆積物、土壌の Re-Os 同位体系(1 広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻・2 京都大学大学院理学研究科地球熱学研究施設・3 海洋科学技術センター-固体地球統合フロンティア研究システム)○服部雄次¹・鈴木勝彦²・本多将俊³・清水洋¹
- 1D21 中国南東部新生代玄武岩中の巨大斑晶の希ガス同位体組成(1 大阪大学大学院理学研究科・2 南京大学)○安田誠¹・松本拓也¹・方中²・松田准一¹・藤岡聡介¹
- 1D22 日本海拡大期に活動した東北日本新第三紀火山岩の Pb,Sr,Nd 同位体地質学(1 熊本大学理学部環境理学科・2 神戸大学理学部地球惑星科学科)○能田成¹・可児智美¹・乙藤洋一郎²
- 1D23 粘土鉱物へのラジウムの選択的吸着に起因する Pb 同位体異常(広島大学大学院理学研究科)○堀江憲路・日高洋
- 1D24 苗木花崗岩・ペグマタイトの希土類元素存在度パターンに見られる四組効果(名古屋大学院環境学研究科)○高橋貴文・川邊岩夫
- 1D25 北上山地周辺の河川堆積物の元素濃度分布について(産業技術総合研究所)○御子柴真澄・今井登
- 1D26 等温ブライナー法および BO 法による天然ガラスのフィッシュン・トラック年代測定(鹿児島大学教育学部)○鈴木達郎

第1日(9月26日)午後 ポスターセッション(1)

【ポスター会場:総合教育研究棟】

(コアタイム 16:00-17:30 ポスター掲示は9時から)

【陸水】

- 1P01 琵琶湖水系における宇宙線生成核種 ^{22}Na の収支 (1) (財)環境科学技術研究所² 金沢大学³ 琵琶湖研究所⁴ 金沢学院大学) ○大塚良仁¹・山本政儀²・横田喜一郎³・坂口綾²・佐々木圭一⁴・小村和久²
- 1P02 シラス台地における河川の水質形成機構 (鹿児島大学理学部) 穴澤活郎[○]・清原拓二[・]・富安卓滋[・]・坂元単雄
- 1P03 岩石の溶出実験を通して河川水の化学組成を考える (1) 琉球大学理工学研究所² 琉球大学理学部) ○石山義仁¹・渡久山章²
- 1P04 限外ろ過/ICP-MSによる富士山麓と甲府盆地における河川水・湖水中微量元素のスぺシエーション (1) 山梨県環境科学研² 山梨大工) ○京谷智裕¹・川久保進²・奥水達司¹・岩附正明²
- 1P05 甲府山地・河川系の地球化学的研究 (1) 横浜国立大学環境情報学府² 横浜国立大学環境情報研究院³ 横浜国立大学教育人間科学部) ○大森典子¹・有馬眞²・中村栄子³
- 1P06 硫黄含有個別粒子の硫黄存在状態から見た河川水中微量元素の循環過程 (山梨県環境科学研) ○京谷智裕[○]・奥水達司
- 1P07 鹿児島市地下水中の化学成分の挙動 — 陰イオンを中心にして— (鹿児島大学理学部) 坂元単雄[○]・新里卓也[・]・富安卓滋[・]・穴澤活郎
- 1P08 鹿児島市地下水中の化学成分の挙動 — 陽イオンを中心にして— (鹿児島大学理学部) 坂元単雄[○]・梶原佑介[・]・富安卓滋[・]・穴澤活郎
- 1P09 岩手県北部大規模トンネル周辺の地下水の地球化学的特徴について (1) 秋田大学工学資源学部² 明治コンサルタント株式会社) ○川原谷浩¹・三浦理司²・松葉谷治¹

【温泉/熱水】

- 1P10 環境中での *Legionella pneumophila* の VNC 移行性について (1) 東邦大学医学部² 東邦大学理学部) ○加藤尚之¹・大野章¹・山田宏治²・山口憲三¹
- 1P11 長崎県の小浜温泉・雲仙温泉における硫黄同位体比組成の特徴について (1) 九州大学大学院理学府² 九州大学大学院理学研究院³ 岡山大学固体地球研究センター⁴ 九州大学工学部環境センター) ○竹井基晴¹・石橋純一郎²・千葉仁³・池見洋明⁴
- 1P12 東関東地域における温泉・湧水中のウラン濃度 (産業技術総合研究所地質調査総合センター) ○金井豊[・]・関陽児[・]・上岡晃[・]・間中光雄[・]・月村勝宏[・]・中嶋輝允

【海洋】

- 1P13 海水中の重い希ガス濃度の精密測定 (1) 広島大学院理² 東京大海洋研) ○小杉卓真¹・高畑直人²・佐野有司²
- 1P14 海草葉部の分解に関する基礎実験 (1) (財)環境科学技術研究所² 静岡大学理学部³ (株)水圏科学コンサルタント) ○石川義朗¹・西野康人¹・鈴木欽²・Beatriz E Casareto³
- 1P15 海底熱水系における溶存態有機物 (1) 九大院理² 九大院比文) ○北島富美雄¹・山中寿朗²
- 1P16 極低バックグラウンドγ線測定の高濃度試料への適用 (金沢大学) ○井上睦夫[・]・小藤久毅[・]・山本政儀[・]・小村和久
- 1P17 熊野沖海底冷湧水の化学組成 (1) 北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻² 産業技術総合研究所) ○土岐知弘¹・角皆潤¹・蒲生俊敬¹・倉本真一²・石村豊徳¹・YK02-02 乗船研究者一同
- 1P18 熊野海盆泥ダイアピルから得られた間隙水の化学組成 (1) 北海道大学大学院理学研究科² 東京大学海洋研究所³ 海洋科学技術センター⁴ 産業技術総合研究所) ○井尻暁¹・角皆潤¹・蒲生俊敬¹・芦寿一郎²・木下正高³・中村光一⁴
- 1P19 深海底天然ガスハイドレートの安定条件に関する研究 (産業技術総合研究所) ○前川竜男
- 1P20 八重山諸島南方黒島海丘における冷湧水の化学組成と湧出ガスの起源 (1) 北海道大学理学部地球科学科² 北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻³ 海洋科学技術センター海洋生態環境研究部⁴ 海洋科学技術センター深海研究部) ○小坂紋子¹・中山典子²・角皆潤²・蒲生俊敬²・藤倉克則³・町山栄章⁴
- 1P21 海洋における鉄の沈降粒子束 (北海道大学院地球環境) ○乗木新一郎
- 1P22 鹿児島湾堆積物の有機炭素・窒素同位体比の空間・深度分布 (1) 東京都立大学大学院理学研究科² 鹿児島大理学部³ 産総研海洋資源環境⁴ 鹿児島大学水産学部) ○奈良岡浩¹・小泉孝行¹・根建心具²・山本温彦²・丸茂克美³・前田広人⁴・坂元単雄²

【堆積物】

- 1P23 琵琶湖と鹿児島湾の底質比較(その1) (1) 滋賀県琵琶湖研究所² 金沢大学理学部³ 鹿児島大学水産学部) ○横田喜一郎¹・井上睦夫²・山本政儀²・中島美和子³・Dung Nguyen³・前田広人³
- 1P24 鹿児島湾・若尊カルデラ内堆積物におけるバイオマーカー分布と同位体組成 (1) 東京都立大学² 鹿児島大学) ○小泉孝行¹・奈良岡浩¹・根建心具²

第1日(9月26日)午後 ポスターセッション(1) つづき

- 1P25 カナダ Shebandowan 湖地域の赤色岩層に伴う赤鉄鉱・磁鉄鉱は太古代の古土壌起源か—酸素同位体比による予察的アプローチ (1九州大学大学院環境システム科学研究センター・2ペンシルバニア州立大学地球科学部門・3九州大学大学院理学研究院) ○池見洋明¹・大本洋²・中村智樹³・島田允堯³
- 1P26 何が太平洋堆積物の REE 組成を決めているのか—Chemical Leaching による解明— (名古屋大学環境学研究所) ○武辺勝道・山本鋼志
- 1P27 過去14万年間の水期—間水期におけるバイカル湖堆積物中バイオマーカーの安定炭素・水素同位体組成変化 (1東京都立大学大学院理学研究科・2創価大学教育学部) ○堀田園江¹・石渡良志¹・山本修一²・奈良岡浩¹
- 1P28 三層紀層状チャートの化学組成における生物起源粒子の寄与 (1名古屋大学環境学研究所・2オレガノ(株)) ○杉谷健一郎¹・滝口徹²
- 1P29 四万十帯に分布する Fe-Mn 堆積物の Os 同位体組成 (1山口大地理地球科学・2東工大地球システム・3京大地理地熱研) ○藤永公一郎¹・加藤泰浩²・鈴木勝彦³
- 1P30 中国西北部イリ盆地で採取した黄土—古土壌シーケンスの Re-Os 同位体組成 (1IFREE, JAMSTEC・2理化学研究所・3京都大学・4Zhejiang Normal Univ) ○本多将俊¹・矢吹貞代²・鈴木勝彦³・Ye Wei⁴・巽好幸¹
- 1P31 南極エンダービーランド, リチャードソン湖の湖底堆積物から見る完新生の環境変化の記録 (1静岡大学理学部・2極地研究所・3九州大学理学部) 永山美也子¹・○和田秀樹¹・三浦英樹²・鹿島薫³
- 1P32 琵琶湖底泥の Sr 同位体比 (1名古屋大学大学院環境学研究所・2名古屋大学年代測定総合センター・3愛知医科大学核医学センター・4滋賀県琵琶湖研究所) ○南雅代¹・小田寛貴²・小島貞男³・横田喜一郎⁴・中村俊夫²
- 1P33 本州・北海道地域の地球化学図と元素の分布特性 (産業技術総合研究所地質調査総合センター) ○今井登・寺島滋・太田充恒・岡井貴司・御子柴真澄・金井豊・上岡晃・富樫茂子・松久幸敬・立花好子
- 1P34 青海湖堆積物コア試料の地球化学特徴および古堆積環境の変化 (1京都大学地球熱学研究施設・2SUEC・3中国科学院蘭州地質研究所・4東京大学広域科学) ○鄭国東¹・鈴木勝彦¹・徐勝²・史基安³・WANG Qi³・高野穆一郎⁴・久野章仁⁴
- 1P35 地すべり断面中の鉄元素化学種の変化—地すべり発達の指標 (1東京大学広域科学・2中部日本鉱業研究所・3京都大学地球熱学研究施設) ○鄭国東¹・LANG Yuhua²・高野穆一郎¹・鈴木勝彦³・松尾基之¹・平林幹啓¹
- 1P36 安定同位体組成を用いた自動車排ガス中における微量気体の生成・消滅過程の解析 (1北海道大学理学部地球惑星科学専攻地球惑星物質科学・2北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻・3日本自動車研究所エネルギー環境研究部) ○山口潤子¹・角皆潤²・中川書子²・小松大祐²・蒲生俊敬²・秋山賢一³
- 1P37 ACE-Asia 航空機試料における一酸化炭素の炭素・酸素安定同位体比とその起源 (1北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻・2北海道大学低温研究所・3Academic Sinica, Taiwan・4University of Hawaii) ○小松大祐¹・五十嵐義貴¹・角皆潤¹・中川書子¹・蒲生俊敬¹・斎藤拓也²・河村公隆²・T-Y Chen³・B.J.Huebert⁴
- 1P38 つくば市において粒径別に採取された風送塵中の水溶性成分の化学組成 (産業技術総合研究所) ○上岡晃・金井豊
- 1P39 沖縄島における降下物に関する化学的研究 (1琉球大学理工学研究科・2琉球大学理学部) ○岩崎綾¹・伊敷牧¹・渡久山章²
- 1P40 青森県六ヶ所村における 137Cs 降下量の変動と黄砂イベントの影響 (財団法人環境科学技術研究所) ○赤田尚史・川端一史・長谷川英尚・大塚良仁・築地由貴・稲葉次郎・近藤邦男
- 1P41 中国東部・日本国内における輸送途上風送ダストの観測 (1産業技術総合研究所地質調査総合センター・2広島大学大学院・3名古屋大学大学院) ○金井豊¹・太田充恒¹・上岡晃¹・寺島滋¹・今井登¹・松久幸敬¹・清水洋²・高橋嘉夫²・甲斐憲次²・徐伯瑜³
- 1P42 都市大気中の気体状金属及び微小粒子の金属成分の濃度 (オーグランド大学) ○伊藤正義・シューター デビッド
- 1P43 八戸地域で採取した降水の $\delta D, pH$ の特徴 (八戸工業大学) ○工藤久佳・村中健
- 1P44 連続フロー型質量分析測定を用いた CO₂ の $\Delta^{18}O$ 測定法の開発 (北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻) ○工藤新吾・中川書子・角皆潤・蒲生俊敬
- 1P45 チャンパー法を用いた土壌呼吸における酸素と二酸化炭素の交換比率の測定 (国立環境研究所) ○李美善・遠島康徳・井上元
- 1P46 希ガス及びSr同位体組成を利用した地下水流動状態の推定の試み—岐阜県東濃地域における事例 (1三菱マテリアル総合研究所・2東京大学地殻化学研究施設・3核燃料サイクル機構東濃地科学センター・4三菱マテリアル資源開発) ○上田晃¹・亀井淳子¹・長尾敬介²・濱克浩³・川村博⁴

【岩石/地殻】

1P47 "Whole-rock dehydration during the replacement of relict clinopyroxene by amphibole during metamorphism of volcanic rocks: A case study from the Sierra Nevada, California, USA" (1東京工業大学理学部・2UC Davis) ○Timothy J. Fagan¹・Day Howard W.²

【大気/降水】

1P48 X線吸収微細構造(XAFS)による炭酸カルシウム中の微量希土類元素の存在状態の解析 (1産業技術総合研究所環境管理研究部門・2東京大学大学院理学系研究科・3広島大学大学院理学研究科・4東京農工大学農学部・5高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所) ○津野宏¹・鍵裕之²・高橋嘉夫³・赤木右⁴・野村昌治⁵

第 1 日 (9 月 26 日) 午後 ポスターセッション(1) つづき

- 1P49 ハワイ・サウスアーチ火山地域アルカリ玄武岩類の同位体地球化学 (熊本大学理学部環境理学科・²東京工業大学理学部地球惑星科学科) ○可見智美¹・高橋栄一²・能田成¹
- 1P50 リン酸塩鉱物の U-Pb 同位体分析によるオーストラリア・ビルバラクラトン中の Mt. Roe 玄武岩の年代学的研究 (広島大学理学部・²広島大学大学院理学研究科・³鹿児島大学理工学研究科) ○小徳美和¹・堀江憲路²・寺田健太郎²・日高洋²・帆足雅通³・根建心具³
- 1P51 伊豆島弧溶岩試料の ²³⁸U-²³⁰Th-²²⁶Ra 放射非平衡分析 (東京大学地震研究所) ○福田聡・中井俊一
- 1P52 玄武岩、安山岩、流紋岩中のガラス包有物の含水量をラマン顕微鏡を用いて測定する (京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設・²京都大学大学院地球熱学研究施設・³ハノーバー大学・⁴東京大学大学院理学研究科附属地殻化学実験施設) ○川本竜彦¹・西村光史²・山下茂³・鍵裕之⁴
- 1P53 最近発行された GSJ 岩石標準試料の放射化分析 (東京都立大学理学研究科) 大浦泰嗣・○唐牛譲・海老原充
- 1P54 同位体希釈中性子放射化分析による岩石中の白金族元素とレニウムの高精度定量 (名古屋大学環境学研究科・²名古屋大学理学研究科) ○田中剛¹・仙田量子²・柴田信之介¹・南雅代¹・谷水雅治²
- 1P55 琉球石灰岩の TL 特性 (琉球大学理工学研究科) ○當間志乃
- 1P56 海水中の Re-Os の堆積物への取り込みに関する実験的研究 (広島大学理学部地球惑星システム学科・²広島大学大学院理学研究科・³理化学研究所) ○伊藤正之¹・高橋嘉夫²・毛利博美¹・蛭沼利江子³・榎本秀一³・清水洋¹
- 1P57 岩石中の Eu(II)/Eu(III)比の直接分析とその Eu 異常との比較 (広島大学大学院理学研究科・²高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所放射光研究施設) ○高橋嘉夫¹・野村昌治²
- 1P58 Re-Os 年代、初生同位体からみた西南日本三郡超マフィック岩体の生成過程 (京大地熱研・²島根大教育) ○鈴木勝彦¹・松本一郎²
- 1P59 西南日本大山玄武岩、デイサイトのオスミウム同位体比:沈み込み帯でのオスミウムの挙動 (京大地熱研・²IFREE, JAMSTEC) ○鈴木勝彦¹・田村芳彦²・佐藤佳子²
- 1P60 東部中国大陸下マントルのオスミウム同位体比 (京大地熱研・²都立大理) ○鈴木勝彦¹・Li Xiaolin²・海老原充²
- 1P61 白金-オスミウム系、レニウム-オスミウム系を用いてマントルブルームの発生深度を探る試み:予察の結果 (京大地熱研・²IFREE, JAMSTEC・³産総研地球科学) ○鈴木勝彦¹・本多将俊²・篠塚一典²・下田玄³・巽好幸²
- 1P62 雲仙平成溶岩に含まれるガラス包有物の水濃度 (京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設・²九州大学総合研究博物館・³鹿児島大学理学部地球環境科学科・⁴岡山大学固体地球研究センター) ○西村光史¹・杉本健²・小林哲夫³・山下茂⁴・川本竜彦¹

第2日(9月27日)午前 ポスターセッション(2)

【ポスター会場:稲盛会館】

(コアタイム 9:30-11:00 ポスター掲示は8時30分から)

【鉱床】

2P01 大西洋中央海嶺(TAG 熱水サイト)におけるチムニーの成長と化学組成¹⁾ 琉球大学理学部²⁾ 京都大学原子炉実験所³⁾ ○野口拓郎¹⁾・大森保¹⁾・高田実弥²⁾

【地球外物質】

2P02 SHRIMP による Nakhilites 隕石の U/Pb 年代分析(広島大学大学院理学研究科) ○寺田健太郎・佐野有司

2P03 エンスタタイトコンドライト中の不透明鉱物¹⁾ 鹿児島大学大学院理工学研究科²⁾ 鹿児島大学理学部³⁾ 岩手大学工学部 ○中国久子¹⁾・根建心具²⁾・矢内桂三³⁾

2P04 新しい南極産火星隕石(nakhlite)の希土類元素パターン及び年代¹⁾ 神戸大学理学部²⁾ 国立極地研究所 ○中村昇¹⁾・山川茜¹⁾・山下勝行¹⁾・小林俊則¹⁾・今柴直也²⁾・三澤啓司²⁾・小島秀康²⁾

2P05 地球化学試料中のタングステン同位体分別(東京工業大学) ○平田岳史

2P06 鉄隕石 Gibeon 中の宇宙線生成核種¹⁾ 日本大学大学院総合基礎科学研究科²⁾ 日本大学文理学部³⁾ 高エネルギー加速器研究機構⁴⁾ 東京大学原子力研究総合センター ○野口真弓¹⁾・佐藤寛子²⁾・小久保昌義²⁾・松村宏³⁾・松崎浩之⁴⁾・本田雅健²⁾・永井尚生²⁾

2P07 複合コンドライトの形成過程¹⁾ 九州大学大学院理学研究科²⁾ 茨城大学理学部 ○赤木剛¹⁾・中村智樹¹⁾・野口高明²⁾

【有機物】

2P08 PAH の水素同位体交換の可能性と隕石中 PAH への応用(東京都立大学) ○大場康弘・奈良岡浩

2P09 クロロフィルの続成変化におけるベンゾポルフィリン生成のシミュレーション実験(筑波大学化学系) ○小園正樹・野本信也

2P10 ピレンの衝撃反応(名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻) ○三村耕一・外山誠司・真殿哲司

2P11 現生湖沼堆積物中の天然起源多環芳香族炭化水素¹⁾ 信州大学理学部²⁾ 東京都立大学大学院理学研究科 ○福島和夫¹⁾・春日麻紀¹⁾・遠藤充雄¹⁾・奈良岡浩²⁾

2P12 同一ガス田内での天然ガスの組成の相違:中条ガス田における例(産業技術総合研究所) ○猪狩俊一郎・金子信行

2P13 粘土存在下におけるメチルフェナントレンの熱異性化の機構(筑波大学化学系) ○野本信也・萩原正義・中野壽信・下山晃

2P14 模擬原始地球環境におけるアミノ酸の反応(九大院理) ○佐藤大樹・村江達士

【環境】

2P15 3次元蛍光光度法による大気汚染物質のモニタリング(近畿大学理工学部) ○中口謙・田中哲哉・西村崇・奥田真未

2P16 サンゴの白化現象による代謝量と化学物質質量の変化—培養実験について—(琉球大学理学部海洋自然科学科) ○藤村弘行・新垣雄光・大森保・平良初男

2P17 愛知県北東部の Sr 同位体比の分布とその規定要因¹⁾ 名古屋大学理学部²⁾ 名古屋大学環境学研究科 ○石黒寛子¹⁾・浅原良浩²⁾

2P18 沖縄県本島沿岸域における有機スズ化合物の分布(琉球大学理学部) ○澤野健三郎・大森保

2P19 凝灰質堆積岩中の酸化還元フロントにおける元素移動とメカニズム(その2)¹⁾ 名古屋大学博物館²⁾ 名古屋大学環境学研究科³⁾ 名古屋大学理学部 ○吉田英一¹⁾・山本綱志²⁾・與語節生³⁾

2P20 凝灰質堆積岩中の酸化還元フロントにおける元素移動とメカニズム(その1)¹⁾ 名古屋大学環境学研究科²⁾ 名古屋大学博物館³⁾ 名古屋大学理学部 ○山本綱志¹⁾・吉田英一²⁾・與語節生³⁾

2P21 酸化還元環境の変動に伴う水田土壌でのヒ素の溶出挙動の変化¹⁾ 広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻²⁾ 農業環境技術研究所 南川玲子¹⁾・光延聖¹⁾・高橋嘉夫¹⁾・木方展治²⁾・栗島克明²⁾・結田康一²⁾

2P22 大気腐食鉄板の状態分析による環境モニタリング(東京大学大学院総合文化研究科) ○池田堅一郎・久野章仁・松尾基之

2P23 微生物化石を含む始生代石英脈の地球化学的研究¹⁾ 東京大学²⁾ 広島大学 ○西澤学¹⁾・寺田健太郎²⁾・佐野有司¹⁾・高畑直人¹⁾・上野雄一郎¹⁾

2P24 琉球列島周辺海域におけるPCBの分布と挙動¹⁾ 琉球大学理学部²⁾ 沖縄環境分析センター ○ Sheikh, Mohammed Ali¹⁾・大森保¹⁾・小渡由隆²⁾

第2日(9月27日)午前 ポスターセッション(2) つづき

- 2P25 北海道の亜遠隔地における淡水魚の重金属汚染 (1
室蘭工業大学・2 サーマコエスト株式会社) ○白幡浩
志¹・尹松²

[その他]

- 2P26 テトラエトキシシランから作製した新しいシリカゲルア
クチベーターを使用した鉛同位体比測定 (京都大学
大学院理学研究科附属地球熱学研究施設) ○宮崎
隆・柴田知之・芳川雅子
- 2P27 フィリピン Nonoc 島の沿岸堆積物の重金属の分布
(鹿児島大学理工学研究科) ○LO JENERPER・坂元
隼雄・富安卓滋・穴澤活郎
- 2P28 ポリネシア Tubuai の海洋島玄武岩の Re-Os 同位体
組成の特徴 (1IFREE,JAMSTEC・2京都大学) ○本多
将俊¹・鈴木勝彦²・巽好幸¹
- 2P29 ポリネシア地域 Rarotonga 海洋島玄武岩における白
金族元素存在度 (1海洋科学技術センター固体地球
統合フロンティア・2京都大学理学研究科地球熱学研
究施設) ○篠塚一典¹・鈴木勝彦²・巽好幸¹
- 2P30 化学交換反応における銅及び亜鉛の同位体分別
(東京工業大学大学院) ○浅田陽一・平田岳史
- 2P31 玄武岩質標準岩石中 28 不整合元素の ICP-MS によ
る定量 (1IFREE,JAMSTEC・2京大院地熱研) ○常青¹
・柴田知之²・篠塚一典¹・芳川雅子²・巽良幸¹
- 2P32 産総研地球化学標準試料 JCT-1 (シヤコ貝) の調製と
その化学組成 (産総研地質調査総合センター) ○
岡井貴司・鈴木淳・寺島滋・川幡穂高・今井登
- 2P33 産総研地球化学標準試料 JCu-1 (銅鉱石), JZn-1
(亜鉛鉱石) の作製とその共同分析結果 (産総研地
質調査総合センター) ○岡井貴司・寺島滋・今井登・
佐藤興平・谷口政碩

第2日(9月27日) 50周年記念講演・受賞講演等

【講演会場:稲盛会館(講堂)】

・50周年記念講演

(11:00~12:30)

－ホットスポット大研究－ 地球化学研究の一つの可能性
(東京工業大学理学部地球惑星科学科) 高橋栄一
元素の地球化学的循環-その環境的意味と追跡法(独立行政法人国立環境研究所) 森田昌敏

・2002年度日本地球化学会学会賞等受賞講演

(15:30~17:30)

奨励賞 存在状態の解明に基づく微量元素の地球表層での化学反応に関する研究(広島大学理学部地球惑星システム学科) 高橋嘉夫
奨励賞 同位体を使った氷期-間氷期の気候変動に関する研究(Institute of Geophysics and Planetary Physics Lawrence Livermore National Laboratory) 横山祐典
学会賞 背弧海盆および中央海嶺熱水系の地球化学的研究(北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻) 蒲生俊敬
柴田賞 フズリナ化石に富む石灰岩のランタノドに見られる“dislocation” 効果:地球化学における REE規格値の選択の意義(東京大学名誉教授) 増田彰正

第3日(9月28日)口頭発表 午前

[A会場]

[地球外物質]

- (9:00~12:00)座長:長尾敬介・日高洋・下田玄
- 3A01 Fe-Ni合金を含むユークライト Dhofar 007の化学組成(1 東京都立大学大学院理学研究科化学専攻・2 国立極地研究所)○脊戸柳武彦¹・山口亮²・海老原充¹
- 3A02 Lコンドライト母天体の熱変成過程-⁵³Mn-⁵³Cr年代からの制約(1 総合研究大学院大学・2 極地研究所)○富山隆将¹・三澤啓司²
- 3A03 Sm, Gd 同位体比変動に基づくオーブライイト隕石の宇宙線照射履歴(1 広島大学大学院理学研究科・2 国立科学博物館・3 カリフォルニア大サンジェゴ校)○日高洋¹・米田成一²・Kurt Marti³
- 3A04 アエンデ隕石に含まれるコンドルールの変成作用: Sr同位体組成からの制約(1 産業技術総合研究所・2 神戸大学理学部・3 茨城大学理学部・4 熊本大学理学部・5 名古屋大学理学部)○下田玄¹・中村昇²・木村眞³・能田成⁴・山本鋼志⁵
- 3A05 SNC隕石 Y000593の化学組成の特徴(東京都立大学)○白井直樹・大浦泰嗣・天川裕史・海老原充
- 3A06 Vaca Muerta メンデレイの熱履歴(1 総合研究大学院大学数物科学研究所・2 国立極地研究所)○玉置美奈子¹・三澤啓司²・山口亮²・海田博司²
- 3A07 Yamato 82202: Glass veins formed by impact on the HED parent body (国立極地研究所)○Paul Buchanan・三澤啓司・山口亮
- 3A08 コンドライト隕石中の酸可溶相に存在する希ガス(1 東京大学地震研究所・2 東京大学理学系研究科地球惑星科学・3 東京大学理学系研究科地殻化学実験施設)○三浦弥生¹・杉浦直治²・清田馨¹・長尾敬介³
- 3A09 コンドルールの²⁶Al年代に関する問題点(産総研地球科学情報研究部門)○木多紀子
- 3A10 パラサイト隕石の微量元素存在度:小惑星天体におけるコア-マントル形成過程(都立大埋化学)○箕輪はるか・海老原充
- 3A11 ポリミクト角礫岩中の希ガス(東京大学大学院理学系研究科)○大澤崇人・長尾敬介
- 3A12 塩素の同位体宇宙地球化学(2)(神戸大学大学院自然科学研究科)川嶋雅則・○中村昇・沼田雅彦・藤谷達也

[B会場]

[堆積物]

- (9:00~11:45)座長:河野元治・千葉仁・垣内正久
- 3B01 LPTM(the Late Paleocene thermal maximum)における炭素循環(1 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻・2 東京大学大学院新領域創成科学研究科複雑理工学専攻)○松岡景子¹・田近英一¹・多田隆治¹・松井孝典²・池田敬¹
- 3B02 X線吸収微細構造(XAFS)解析を用いた鉄・マンガン水酸化物中の希土類元素の構造解析(1 産業技術総合研究所地質調査総合センター・2 東京大学大学院理学研究科・3 産業技術総合研究所環境管理研究部門・4 広島大学大学院理学研究科・5 高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所・6 名古屋大学大学院環境科学研究科)○太田充恒¹・鍵裕之²・津野宏³・高橋嘉夫⁴・半田智子⁵・野村昌治⁶・川邊岩夫⁶
- 3B03 インドネシア・ジャワ島西部の Rawa Danau 湖の泥炭堆積物を用いた完新世中期から後期にかけての森林火災の復元(1 北海道大院地球環境・2 地球観測フロンティア研究システム)○辻寛之¹・田中教幸²
- 3B04 インド西部における原生代石灰岩の希土類元素と安定同位体の地球化学(1 名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻・2 インド物理研究所)○Aninda Mazumdar¹・Soumen Kumar Bhattacharya²・川辺岩夫¹・田中万也¹・高橋貴文¹
- 3B05 カリブ海バハマ沖の深海底コアに基づく第四紀石灰質ナノプランクトン生産量と窒素同位体比の関係(秋田大学)○長谷川英尚・北逸郎・佐藤時幸
- 3B06 バイカル湖堆積物における過去 25 万年間の炭素・窒素・硫黄の安定同位体組成変動(1 東京都立大学・2 東海大学・3 名古屋大学)○渡邊隆広¹・奈良岡浩¹・西村弥重²・河合崇欣³
- 3B07 海底堆積物中のセレン(3)～分布形態と海域特性について～(1 東大海洋研・2 近畿大理工・3 近畿大総合理工)○服部裕史¹・中口謙²・高田正貴²・竹井宗靖²・山口善敬³
- 3B08 湖底堆積物を用いたモンゴル・フブスグル湖における藻類活動の変遷 -藻類由来光合成色素を指標として-(1 東京都立大学・2 静岡県立大学・3 弘前大学・4 名古屋大学)○奈良郁子¹・相馬悠子²・相馬光之²・奈良岡浩¹・堀内一穂³・河合崇欣⁴
- 3B09 堆積物-地下水でのヒ素の挙動を規制する要因(大阪市立大学大学院理学研究科)○益田晴恵
- 3B10 風化堆積物中での微生物によるイオン濃集と鉱物生成(鹿児島大学)○河野元治・富田克利
- 3B11 鹿児島県喜界島炭酸塩堆積物の続成過程における微量元素の地球化学的挙動(群馬大学工学部)○相沢省一・清水春美

第3日(9月28日)口頭発表 午前

【C会場】

【その他】

(9:00~11:30)座長:北逸郎・佐竹洋

- 3C01 亜鉛の絶対同位体存在度の決定(東工大院理工地球惑星)○谷水雅治・溝田陽一・平田岳史
- 3C02 塩化メチル-IRMS法による塩素同位体比測定を検討(1富山大学理工学研究科・2富山大学理学部)○呉佳紅¹・佐竹洋²
- 3C03 還元法を用いた希ガス同位体測定系の開発(1大阪大学大学院理学研究科・2東京大学)○松本拓也¹・松田准一¹・小嶋稔²
- 3C04 蛍光法を用いた炭酸カルシウムの溶解初期過程の研究(東京大学大学院理学系研究科)○神谷奈津美・角森史昭・鎌裕之・野津憲治
- 3C05 顕微ラマン分光およびSEM-EDSを用いた風送ダスト粒子の鉱物特性(1理化学研究所・2山形大学)○矢吹貞代¹・金山晋司²・松本寿子²・柳澤文孝²
- 3C06 湖底、海底から採取された化石骨の炭素・窒素・Sr同位体比(1名古屋大学大学院環境学研究科・2名古屋大学年代測定総合研究センター)○南雅代¹・中村俊夫²
- 3C07 水素発生を伴う岩石滑り実験(1名古屋大学大学院環境学研究科・2名古屋大学大学院理学研究科地震火山観測研究センター)○犬塚吉博¹・川邊岩夫¹・山田功夫²
- 3C08 生命の地球起源を示唆する化学知見(1神奈川大学総合理学研究所・2神奈川大学理学部)○藤原鎮男¹・西本右子²
- 3C09 堆積盆の隆起・沈降現象からみた天然ガスの生成プロセスに関する一考察(秋田大学工学資源学部)○北逸郎・長谷川英尚・松田皇佳・佐藤時幸
- 3C10 風送ダスト発生域におけるエアロゾルおよび土壌の地球化学的特徴(1山形大学大学院理工学研究科・2理化学研究所・3山形大学理学部・4日本原子力研究所・5中国科学院新疆生態与地理研究所・6中国科学院寒区旱区環境与工程研究所)○金山晋司¹・矢吹貞代²・柳澤文孝³・付鳳富⁴・曾凡江⁵・劉明哲⁵・潘志宝⁶・劉立超⁶

第3日(9月28日)口頭発表 午後

[A 会場]

[地球外物質]

(13:00~15:00)座長: 坂本尚義・米田成一

- 3A13 狭山隕石に含まれる有機化合物の特徴 (1 地質調査総合センター・2 都立大学・3 筑波大学) ○古宮正利¹・奈良岡浩²・三田肇³・下山晃³
- 3A14 結晶中に酸素同位体不均一を持つ CAI: 二次元分布の撮影 (1 東京工業大学理工学研究科地球惑星科学専攻・2 カリフォルニア大学) ○伊藤正一¹・永島一秀¹・国広卓也²・坂本尚義¹
- 3A15 結晶中に酸素同位体不均一を持つ CAI: その成因 (1 東京工業大学理工学研究科地球惑星科学専攻・2 カリフォルニア大学ロサンゼルス校) ○永島一秀¹・伊藤正一¹・国広卓也²・坂本尚義¹
- 3A16 原始惑星系における酸素同位体異常の起源 (東京工業大学理学部) ○坂本尚義
- 3A17 原始的エイコンドライト LEW86220 の Sm-Nd 同位体系の研究 (1 神戸大学大学院自然科学研究科・2 神戸大学理学部) ○大橋佐和子¹・貴田恵美¹・山下勝行²・中村昇²
- 3A18 神戸隕石の硫化鉱物の S 同位体研究 (1 広島大学大学院理学研究科・2 神戸大学理学部・3 大阪大学大学院理学研究科・4 神戸大学理学部) ○リー チー¹・日高洋¹・留岡和重²・土山明³・中村昇⁴
- 3A19 炭素質隕石中のコンドリュールの不均質な酸素同位体比 (1 九州大学大学院理学研究院・2 茨城大学理学部) ○中村智樹¹・赤木剛¹・渡辺大士¹・野口高明²
- 3A20 分化隕石の Pb 同位体分析 (神戸大学理学部地球惑星科学科) ○山下勝行・中村昇

[B 会場]

[有機物]

(13:00~14:45)座長: 坂田将・奈良岡浩

- 3B12 生物試料中の鉄同位体組成 (東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻) ○大野剛・高下一太郎・平田岳史
- 3B13 オーストラリア, ビルバラ地 Mt.Roe 玄武岩に発達した熱水系の有機物 (1 鹿児島大学大学院理工学研究科・2 鹿児島大学理学部・3 東京立大学理学部・4 広島大学理学部) ○野崎順兵¹・根建心具²・奈良岡浩³・日高洋⁴
- 3B14 植物-土壌系における脂質有機分子の水素・炭素同位体組成2次元分布 (東京都立大学) ○力石嘉人・奈良岡浩
- 3B15 石炭マセラルの有機物成分について-石油生成ポテンシャル推定への手掛かり- (1 石油公団石油開発技術センター・2 石油資源開発株技術研究所) ○吉岡秀佳¹・武田信従²
- 3B16 東京湾表層堆積物中の糖分析 (筑波大学化学系) ○三田肇・井田寛子・下山晃
- 3B17 南海トラフ海底表層堆積物柱状試料中の炭化水素バイオマーカー (1 産業技術総合研究所・2 北海道大学大学院理学研究科・3 九州大学大学院比較社会文化研究院) ○坂田将¹・古宮正利¹・成島いずみ¹・角皆潤²・山中寿朗³
- 3B18 霧島温泉堆積物中における好熱性微生物由来有機物の分析 (九大院理) ○深山健一・北島富美雄・村江達士

第3日(9月28日)口頭発表 午後

【C会場】

【環境】

(13:00~15:15)座長:吉村和久・根建心具

- 3C11 海水のpHと化学組成に対する酸性赤色土の影響
(¹琉球大学理工学研究科・²琉球大学理学部)○
Kombo Mohamed¹・Said Ali Vuai¹・渡久山章²
- 3C12 幹線道路沿道における大気中粒子状物質の化学状態分析
(¹東京大学大学院理学系研究科・²国立環境研究所・³東京大学大学院総合文化研究科・⁴高エネルギー加速器研究機構)○平林幹啓¹・小林伸治²・
田邊潔²・松尾基之³・野村昌治⁴
- 3C13 近畿地方の堆積物中の水銀濃度とその歴史トレンド
(¹近畿大学理工学部・²滋賀県琵琶湖研究所・³龍谷大学)○山崎秀夫¹・横田喜一郎²・竺文彦³
- 3C14 都市域リザーバーの堆積物コアに蓄積されたPAHsの分子レベル放射性炭素同位体比測定
(¹農工大農・²海洋科学技術センター・³慶應大理工・⁴国立環境研究所)○菅家博英¹・内田昌男²・奥田知明³・高田秀重¹・米田穰⁴・柴田康行⁴・森田昌敏⁴
- 3C15 東広島市の黒瀬川における農薬とノニルフェノールの分布、季節変化、フラックスおよび発生源に関する研究
(広島大学大学院生物圏科学研究科)○Derbalah, Aly Soliman・中谷暢丈・佐久川弘
- 3C16 有明海堆積物及びノリ試料の安定同位体分析による環境解析
(¹日本大学・²岩手大学・³九州大学・⁴佐賀大学・⁵産業技術総合研究所)○片瀬隆雄¹・溝田智俊²・下山正一³・山中寿郎³・日野剛徳⁴・上田真吾¹・高春心¹・金倫碩¹・山下信義⁵
- 3C17 陸域炭酸塩トッファによる北九州の過去130年間の大気汚染情報の抽出
(¹九大院理・²(株)九電産業・³都立大理)○吉村和久¹・市丸直人¹・松岡史郎¹・能登征美²・浦田健作³
- 3C18 和歌山県南部地域におけるウメ樹木衰退と微量元素の関係
(¹近畿大学理工学部²神戸大学工学部)○西村崇¹・中口讓¹・後藤隆雄²・平木敬三¹
- 3C19 火山灰中の水溶性微量重金属含有量(鹿児島大学理学部)坂元隼雄・○岡山かおり・富安卓滋・穴澤活郎

鳥居基金の募集について（実施期間の変更）

日本地球化学会では、会員に対して、1年に2回、海外派遣と研究集会への助成を行っています。次回の締め切りは7月末日です。従来は10月から翌年3月に実施される行事に対して審査を行っていましたが、今後は10月から1年以内に実施される行事に対して補助をすることと変更します。

鳥居基金

- 7月末日締め切り分の実施期間：10月～翌年9月多数、応募して下さい。
- 実施期間以外の項目は、地球化学名簿号に掲載されています。
- 来年以降、第一回目（1月末日締め切り分）の実施期間は、4月～翌年3月までとなります。

日産学術研究助成は財団直接応募に変更

財団法人 日産科学振興財団

謹啓 時下貴会にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は弊財団の運営に関しまして、格別のご支援ご協力を賜わり、厚く御礼申し上げます。平成13年度の日産科学賞につきましては、お陰様にて参考別紙にお示しいたしました2名の方々に贈呈することができ、また学術研究助成金は合計54名の研究者に贈呈することができました。ご協力に深く感謝いたします。さて、平成14年度・第10回日産科学賞の候補者を募集いたしますので、ご多用中のところお手数を煩わし誠に恐縮に存じますが、下記によりご推薦賜りたく、よろしく願い申し上げます。敬具

記

日産科学賞・候補者推薦要領

1. 日産科学賞（省略）
2. 学術研究助成は財団直接応募に変更いたします。
奨励研究助成については、昨年度まで応募全件をご推薦いただき大変お世話になりありがとうございました。今年度から財団への直接応募に変更させていただきます。大変恐縮ですが、学会員から問い合わせがありましたら、下記のホームページを紹介下さるなど、ご対応よろしく願い申し上げます。なお、当財団ホームページから記入可能な助成申請書式をダウンロードできます。

<http://www.t3.rim.or.jp/~at02-nsj/>

また、YahooとかGoogleなどで「日産科学振興財団」を検索してホームページに接続することも可能です。助成の応募は申請書に記入捺印の上、日産科学振興財団宛に郵送または持参となります。締切は日産科学賞と同一の平成14年8月30日(金) 当財団必着といたします。（ただし、電子メール応募、FAX 応募は無効です）

科学研究費補助金を申請しましょう

- 科学研究費は、備品/消耗品/旅費などを自由に計画・執行することができる使い勝手の良い研究費です。
- 科学研究費：分科“地球惑星科学”細目“宇宙地球化学”は、元素分布、同位体、物質循環、地殻・マントル化学、隕石化学、大気圏・水圏・生物圏化学、などなど地球化学に関する多様な課題の補助金を申請できる窓口です。
- 昨年より、下記のように大学以外の沢山の機関から、補助金の申請ができるようになりました。
- それぞれの分科細目への補助金の配分額は、申請件数に応じてきまります。ですから、大学以外の方が沢山応募されても、大学関係者への分け前？が減る事はありません。安心して下さい。
- 新規申請からの採択率は20～25%です。ですから、確率的には1年目で採択される事も4～5年かかる事もあります。（異なる種目に2件申請すれば、より率が高くなるという計算もできます）
- 細目“宇宙地球化学”への申請件数は、分科“地球惑星科学”に属する他の細目（たとえば固体地球惑星物理学）に比べて、申請件数が少ししかありません。あまり少なくなると、ほかの細目との合併をさせられることもありえます。
- 15年度補助金の申請要項は初秋（昨年は9月頃）公にされます。締め切りはそれぞれの機関で異なります。
- 募集事業に係る要項ならびに申請書の書式等は、日本学術振興会のホームページ（<http://www.jsps.go.jp/>）からダウンロードして入手できます。

地球化学・宇宙化学研究連絡委員会

委員長 田中 剛

科学研究費の申請ができる機関一覧

(たくさん申請して下さい)

科学研究費補助金取扱規程
第2条第4号の研究機関一覧

北海道開拓記念館
④山形県企業振興公社(生物ラジカル研究所)
独立行政法人国立環境研究所
理化学研究所
埼玉県立がんセンター(研究所)
独立行政法人国立女性教育会館
独立行政法人放射線医学総合研究所
千葉県立中央博物館
千葉県がんセンター(研究所)
国立医薬品食品衛生研究所
国立公衆衛生院
国立感染症研究所
④東京都老人総合研究所
国立がんセンター(研究所)
④東京都医学研究機構
国立国際医療センター(研究所)
国立精神・神経センター
国立小児病院(小児医療研究センター)
独立行政法人国立健康・栄養研究所
④統計研究会
④日本進路指導協会
独立行政法人大学入試センター
独立行政法人国立科学博物館
独立行政法人国立国語研究所
独立行政法人国立博物館東京国立博物館
独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所
独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館
独立行政法人国立美術館国立西洋美術館
国立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター
横須賀市自然・人文博物館
神奈川県立歴史博物館
独立行政法人産業医学総合研究所
④神奈川科学技術アカデミー
独立行政法人国立特殊教育総合研究所
山梨県環境科学研究所
愛知県がんセンター(研究所)

愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所
国立療養所中部病院(長寿医療研究センター)
滋賀県琵琶湖研究所
独立行政法人国立博物館京都国立博物館
独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館
大阪府立自然史博物館
大阪府立博物館
国立循環器病センター(研究所)
大阪府教育センター
大阪府立環境科学研究所
大阪府立公衆衛生研究所
大阪府立母子健康総合医療センター(研究所)
大阪府立成人病センター(研究所)
大阪府立農林技術センター
独立行政法人国立美術館国立国際美術館
兵庫県立人と自然の博物館
④元興寺文化財研究所
奈良県立橿原考古学研究所
独立行政法人国立博物館奈良国立博物館
独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所
④放射線影響研究所
科学警察研究所
岡山県生物科学総合研究所
国立療養所近畿中央病院(臨床研究部)
文部科学省科学技術政策研究所
滋賀県立琵琶湖博物館
④岐阜県国際バイオ研究所
④高輝度光科学研究センター
独立行政法人防災科学技術研究所
独立行政法人農業工学研究所
国立水俣病総合研究センター
国立療養所宇多野病院(臨床研究部)
農林水産省農林水産政策研究所
独立行政法人国際農林水産業研究センター
独立行政法人産業技術総合研究所
独立行政法人森林総合研究所
独立行政法人海上技術安全研究所
独立行政法人北海道開発土木研究所
独立行政法人食品総合研究所
国立社会保障・人口問題研究所
独立行政法人農業環境技術研究所
独立行政法人物質・材料研究機構
財団法人大阪市文化財協会
特殊法人日本原子力研究所

気象庁気象研究所
 独立行政法人産業安全研究所
 特別認可法人海洋科学技術センター
 独立行政法人港湾空港技術研究所
 国立佐倉病院（臨床研究部）
 財団法人先端医療振興財団
 独立行政法人水産総合研究センター
 独立行政法人農業技術研究機構
 独立行政法人航空宇宙研究所
 独立行政法人農業生物資源研究所
 独立行政法人建築研究所
 特殊法人宇宙開発事業団
 特殊法人日本体育・学校健康センター（国立スポーツ科学センター）
 独立行政法人土木研究所
 国立療養所南花巻病院（臨床研究部）
 北九州市立自然史博物館
 独立行政法人消防研究所
 (財)若狭湾エネルギー研究センター
 (財)日本数学検定協会（学習数学研究所）

2002年度第1回日本地球化学会評議員会議事録

日時：2002年2月16日(土) 13:00～17:30

場所：山上会館003会議室

出席者：野津憲治会長，田中剛副会長，石橋純一郎，
 鍵裕之，蒲生俊敬，佐竹洋，坂元隼雄，清水洋，
 篠原宏志，富樫茂子，奈良岡浩，長尾敬介，
 野崎義行，松久幸敬，坂本尚義，米田成一，
 和田秀樹（以上評議員）

1. 2002～2003年度評議員の追加委嘱：本会役員選出細則第6条3項に定める会長委嘱の評議員として，松田准一会員（GJ編集長），蒲生俊敬会員（地球化学編集長），松久幸敬会員（Goldschmidt 2003組織委員長），坂元隼雄会員（2002年度年会委員長，2002年度のみ）を承認した。
2. 2002～2003年度評議員懇談会（2001/10/20）メモの承認
3. 報告事項
 - 3.1 庶務（鍵評議員）：学会事務センターとの契約内容の確認（センター内の在庫書籍の問題等を報告）。14年度科研費「研究成果公開促進費」（学術定期刊行物）申請，代表者変更。鳥居名誉会員からの300万円の寄附受領（鳥居基金増資）。第19期日本学

術会議員選挙関連の事務手続き。「第13回二次イオン質量分析国際会議」協賛，「第5回国際土壌・地下水環境WS」後援，「第50回質量分析総合討論会」共催。第1回幹事会を2月8日開催（出席：野津，田中，鍵，植松，奈良岡，松田，蒲生，米田），第1回評議員会議事内容の整理。

3.2 会計（奈良岡評議員）：なし

3.3 編集

3.3.1 GJ（松田評議員）：2001年の投稿数は84編（33編受理，8編却下，1編取下げ，残り審査中）。Vol 35は最終ページ数464で，Editorial AcknowledgementとContentsを入れて470ページ。Vol 36，No.1は7編の論文で2月中旬完成。The Geochemical Societyのホームページからリンクを張ってもらった。2000年度のインパクトファクターは0.9を超え，EPSを抜いた。前回の評議員会でダブル投稿の罰則は「著者全員を5年間GJに投稿禁止とする」と報告したが，筆頭著者以外はこの件を知らなかった事情を考慮して筆頭著者以外は罰則を除外した。GJの在庫処理を学習院での年会にて行った。現時点での在庫数を把握中である。

3.3.2 地球化学（蒲生評議員）：2001年の投稿数は14編（原著論文10，総説2，受賞記念論文1）。35巻の総ページ数は184ページ（原著論文8，総説3，受賞記念論文2，追悼記事1，博士論文抄録2）。日本地球化学会50周年を記念して2003年に特集号の発行を計画している。

3.3.3 ニュース（ホームページを含む）（米田評議員）：ニュース副担当を高橋和也会員（理研），ホームページ副担当を小林貴之会員（日大）に依頼した。ニュースNo.168は2月1日に印刷所に入稿し，3月上旬に会員に配布の予定。No.169原稿締切4月末，発行6月初旬（年会申込案内：講演申込締切6/28）No.170原稿締切6月末，発行8月中旬（年会プログラム：参加申込締切8/30）No.171原稿締切10月末，発行12月初旬（学会賞，鳥居基金募集，合同大会申込案内）。学会ホームページにおける年会受付業務について，複数社からの見積りを含めて実現可能性を検討した。年会申込用ホームページを試作した。本年度から実施するか否かは年会開催地と相談の上早急にきめる。要旨受付は今後の課題。

3.4 行事

3.4.1 2001年度年会（鍵評議員代読）：学習院での年

会は、準備委員会の努力や民間や財団等からの協力などによって、収支決算が大幅に黒字となった。学会宛に年会事務の電子化のための50万円の寄付を行った。

3.4.2 2002年度年会(坂元評議員):9月26日(木)から28日(土)まで。ただし25日(水)午後から一般を対象とした公開講演会を開催する。会場は鹿児島大学郡元キャンパス。講演申し込み締め切り6月28日(金)、講演要旨締め切り7月31日(水)、参加申し込み締め切り8月30日(金)それぞれ必着。課題討論の内容などは検討中。

3.4.3 50周年記念公開講演会(坂元評議員):年会二日目の9月27日(金)午後に開催予定。内容は50周年記念事業実行委員会にて検討する。年会と併せて意見を坂元評議員が随時メールなどで受け付ける。

3.4.4 2003年度年会(野津会長):2003年9月7日(ゴールドシュミット国際会議の前日)に倉敷で開催する。一般講演はポスターを中心にし、総会を行う。受賞講演などは国際会議の会期中に行う。運営は田中副会長、和田行事幹事のもと名古屋大学が行う。

3.5 会員(植松評議員):なし

3.6 委員会

3.6.1 学会賞等受賞者選考委員会(野崎評議員):2002年度の応募件数は、柴田賞0件、学会賞2件、奨励賞5件、功労賞1件。選考作業を進行中。

3.6.2 鳥居基金委員会(益田評議員):前期の応募は2件、選考作業を進行中。

3.6.3 地球化学講座編集委員会(松久評議員):進行状況が報告された。第3巻「マントル・地殻の地球化学」は原稿が完成し、印刷に回ったが、50%程度原稿の集まりの巻が多い。

3.6.4 Goldschmidt 2003組織委員会(松久評議員):全般的な準備の状況が報告され、特にプログラム委員会(国際および国内)の立ち上げと進捗状況、募金活動に関連して募金趣意書の作成状況などが報告され、評議員の方々の協力を強く求めた。

3.6.5 名誉会員推薦委員会(田中副会長):6名の委員(田中剛委員長、石渡良志、松久幸敬、植松光夫、清水洋、坂本尚義)が任にあたることとなった。会員の年齢を明確にする資料を入手した上で、議論を進めることを確認した。

3.6.6 50周年記念事業実行委員会(田中副会長):7名の委員(田中剛委員長、鍵裕之、北川浩之、高橋

嘉夫、奈良岡浩、益田晴恵、米田成一)が任にあたることとなり、次回評議員会に検討を重ね記念事業の提案を行うことになった。

3.7 学術会議

3.7.1 地球化学・宇宙化学研連(田中副会長):地質科学総合研連選出の日本学術会議会員、米倉伸之氏の死去により後任に岩松暉氏が就任した。科研費の分科細目の見直し案で、分科が「地球科学」から「地球惑星科学」へ、細目が「地球化学」から「地球宇宙化学」へと変更になっている。研連見直しで、地球化学・宇宙化学研連は定員が12名から11名へ1名減の案が検討されている。環境学の中での地球化学の位置付けを調査するため、環境学関連の学科、研究科等307箇所へアンケートを配布したところ、163通の回収を得て現在集計中である。

3.7.2 海洋科学研連、陸水学研連、鉱物学研連鉱床学専門委員会、地物研連惑星科学専門委員会:配付された議事録などにより簡単な報告があった。

3.8 連絡会等

3.8.1 地球惑星科学関連学会連絡会:2002年度は日本地球化学会から会長を出すことになっているが、人選は学会・会長と副会長を中心に行い、評議員会の了承を得たい。

3.8.2 地球環境科学関連学会協議会、学校科目「地球」関連学会連絡協議会、水文科学関連学会連絡会、理工学における同位元素・放射線研究発表会運営委員会、原子力総合シンポジウム運営委員会:特になし。

4. 審議事項

4.1 入退会者の承認

【入会】

正会員5名(一般正会員3名、学生会員2名)

2191 海田博司 KAIDEN Hiroshi
国立極地研究所南極隕石研究センター

2192学 大木淳之 OOKI Atsushi
東京大学理学系研究科地球惑星科学専攻

2193 熊谷英憲 KUMAGAI Hidenori
海洋科学技術センター深海研究部

2194 伊藤浩子 ITO Hiroko
(財)地域地盤環境研究所

2196学 高野稔之 TAKANO Toshiyuki
東京学芸大学教育学部

【退会】

正会員2名(うち一般正会員1名(=海外会員1名),シニア会員1名)

OSAE Shiloh, 小澤竹二郎(逝去)

【変更】(2/16の評議員会で承認済み)

正会員のシニア会員扱いへの変更2名:増田彰正, 小嶋稔

この結果,2001年12月31日現在の会員数は以下のとおりとなった。

	正会員(一般正会員)	(学生)	(シニア)	賛助会員	名誉会員	計	(在外)
2001.1.9	1009	(902)	(99)	(8)	16	9	1034 (54)
入会	5	(3)	(2)				5
退会	2	(1)	(0)	(1)			2 (1)
変更	0	(+1)	(-1)				0
推挙							
除籍							
2001.1.12	1012	(905)	(100)	(7)	16	9	1037 (53)

4.2 平成14年度科学研究費(分科「地球科学」,細目「宇宙地球化学」)第1段審査委員候補者の選出:固体地球関係,大気水圏生物圏関係それぞれ3名連記の投票を行い,以下の投票結果を得た(敬称略)。(固体地球関係)海老原充11,清水洋11,川辺岩夫7,坂本尚義4,和田秀樹2,日高洋2,中村昇2,赤木右2,益田晴恵2,ほか7名が各1,白票1:計51

(大気水圏生物圏関係)村江達士8,益田晴恵8,増澤敏行8,赤木右4,佐竹洋3,野尻幸宏3,藤原祺多夫2,和田秀樹2,ほか11名が各1,白票2:計51

推薦依頼が来た時点で,会長副会長が,同一機関の制限や最近の審査委員歴など被推薦資格を考慮して,獲得投票上位者から本学会の推薦者を決めることを承認した。

4.3 「鳥居基金」委員会運営に関する内規の制定:「鳥居基金」については応募要項しかなく,その委員会の日本地球化学会内での位置付けを明確にするため,「鳥居基金」委員会運営に関する内規を幹事会から提案した。審議の結果,原案通り承認され,2月16日より発効することとなった。任期3年で毎年1名交代となることに伴い,現在の委員の交代時期は特例として以下のように決めた:田中委員(2002年末),益田委員(2003年末),清水委員

(2004年末)。

4.4 年会申し込みの電子化について:ニュース/ホームページ担当幹事の米田評議員とホームページ副担当の小林会員を中心として,年会申し込みの電子化を進める準備作業を行うことを了承した。レンタルサーバーにかかる費用などそのために必要な支出を本年度に行うことを了承した。

4.5 その他:2001年度年会開催地(学習院大学)から,年会の電子化に使う目的で50万円の寄附がなされ,その目的にそって使用することが了承された。

5. 次回以降の評議員会の日程(予定)

6月8日(土) 第2回評議員会(東大山上会館)

9月25日(水) 第3回評議員会(鹿児島市内)

第18期第5回地球化学・宇宙化学研究連絡委員会議事録

日時:2002年5月16日(木) 13:30~16:30

場所:日本学術会議第4部会会議室(6階)

出席者:田中剛委員長,青木謙一郎,海老原充,日下部実,清水洋,下山晃,田結庄良昭,中澤高清,中村栄三,藤原顕,松田准一 各委員

報告事項

1. 学術会議関係(青木委員より)

1.1 平成15年度科学研究費補助金:分科・地球惑星科学の第2段審査委員は8名になった。なお,平成14年度までの分科・地球科学の第2段審査委員は6名であった。

1.2 第137回総会(2002年4月17,18日開催)

(1) 運営審議会附置「ITを活用した科学能力開発に関する国際会議」実行委員会の設置を承認した。

(2) 「精神障害者との共生社会特別委員会」の設置を承認した。

(3) 運営審議会附置「情報公開等の公開に関する検討委員会」の廃止が承認された。

(4) 「日本学術会議のあり方(中間まとめ)(案)」についての説明があり,質疑応答がなされた。

(5) 「日本の計画:Japan Perspectiveドラフト(案)」の説明があり,質疑応答がなされた。

1.3 第4部会(2002年3月15日開催)

(1) 物理研連物性物理専門委員会報告(案)「我が国における中性子科学研究推進に関する提言」について趣旨説明があり,一部修正の上,運営審議

会へ提出することが承認された。

- (2) 第4部研連の見直しについて。第4部世話担当研連再編(案)が提示された。地質科学関係は5研連を4研連に、地理研連は2研連を1研連に、地球物理関係は8研連を5研連に改編し、委員定数を含む7研連の設置案が改めて提示され、審議討論された。
- (3) 日本学術会議のあり方について、自由討議がなされた。
- (4) 平成14年度夏季部会について。秋田大学へお願いすることとした。

1.4 第4部会(2002年4月16日、17日開催)

- (1) 小委員会の新規招集申請。地球物理研連「固体地球グローバル観測小委員会」と物理研連物理学一般専門委員会「原子・分子・光物理学小委員会」が承認された。
- (2) 第4部研連の見直しについて。委員定員を含む研連再編案が提示され、承認された。再編案では、地球化学・宇宙化学研連の定員は11名(現在は12名)である。新設研連は、理学振興研連、科学と社会研連、ゲノム科学研連、学術情報発信研連、環境理学研連が、再編案で提示されている。

2. 雑報告

日本学術会議における各種委員会の英語名について、田中委員長より資料をもとに報告があった。

審議事項

1. 平成15年度科学研究費補助金の審査委員候補者の推薦
(1) 推薦依頼:本研連は分科「地球惑星科学」の2段審査委員1名、細目「地球宇宙化学」の第1段審査委員6名のそれぞれの2倍の審査委員候補者の推薦を行う。昨年と同じく18学協会へ推薦依頼を行った。その際に、日本地球化学会には、第1段審査委員候補10名、第2段審査委員候補2名を、それ以外の学協会には第1段審査委員候補2名、第2段審査委員候補1名の推薦を依頼した。14年度からの継続委員(第1段審査委員3名、第2段審査委員1名)は、15年度も推薦することとした。
(2) 第2段審査委員候補の選考:全候補者10名を分野A(固体地球関係)とB(大気・水圏・生物圏関係)に分けた後に、候補者2名を選出した。選出にあたっては年齢や同一の機関に片寄らないな

ど、審査委員候補者の推薦に係る留意事項に従った。

- (3) 第1段審査委員候補者の選考:学会の推薦順位に従い、上位と下位に分けた後、全候補者32名を分野A(固体地球関係)とB(大気・水圏・生物圏関係)に分け、候補者12名を選出した。選出にあたっては、審査委員候補者の推薦に係る留意事項に従った。
- #### 2. 科学研究費補助金, 分科「地球惑星科学」, 細目「地球宇宙化学」のキーワードについて意見交換を行った。

次回, 第18期第6回の委員会は2002年11月14日に開催予定である。

第18期海洋科学研究連絡委員会 (第6回)議事録

日時:平成14年5月21日(火) 13:30~16:40

場所:日本学術会議 第4部会議室

出席者:斎藤常正, 西田篤弘, 谷口旭, 石井春雄, 伊藤絹子, 井内美郎, 平啓介, 角皆静男, 友定彰, 野崎義行, 西田周平, 花輪公雄, 伏見克彦, 古谷研, 前田明夫, 松田治, 山口征矢
欠席者:杉本隆成, 寺崎誠, 灘岡和夫, 松山優治, 松永勝彦

. 報告事項

- (1) 日本学術会議関連
学術会議第137回総会について(谷口委員長)
「日本学術会議の在りかたについて」の原案について協議された。原案の内容は前回本委員会で報告された内容とほぼ同じで、主要点は、科学者が社会に対する使命を正当に果たすには、学協会を基盤とする全領域の科学者を包括するコミュニティー、すなわち日本学術会議の存在が必要である。新しい学術会議は、運営執行を担当する210人前後を含む2,500人前後の会員からなり、現行同様7部編成で活動するが、会員選出は、登録学協会を5つくらいの領域にまとめた上で行う。会員の選任にあたっては、学術上高い評価を得た業績を基準として尊重し、選任された者は終身会員となり、その後の欠を補う新会員候補は会員がこれを選出する。総会では、このうちにかなりの疑義が出た。今後さらに運営審議会等で検討が重ねられ、本年10月の総会において決定される予定である。

(2) SCOR 関連について(角皆 SCOR 副会長)

今秋札幌で開催予定の第26回 SCOR 総会は、日本海洋学会秋季大会および同学会主催の国際シンポジウムと同時開催される予定である。10のセッションを5日間で実施し、それぞれ基調講演や研究発表などを行う予定で準備が進んでいる。また、一般市民対象の講演会も開催する予定なので、講師適任者の推薦を期待している。

・協議事項

(1) 科学研究費補助金審査委員候補者の推薦について(谷口委員長)

科研費審査に関して細目「環境動態解析」および「環境影響評価」の対応研連として承認されたことを受け、各学会(日本海洋学会、日本水産学会、日本地質学会、日本プランクトン学会、水産海洋学会、日本海水学会、日本地球化学会、日仏海洋学会、日本気象学会、土木学会)から候補者を推薦してもらおうよう、委員長から各学会長宛に依頼してあった。各学会より回答された推薦者リストをもとに、本研連として、細目「環境影響評価」(窓口研連は自然保護研連)の一段審査委員に3名、細目「環境動態解析」(窓口研連は地球物理学研連)の一段審査委員の化学系と生物系とに各3名、二段審査委員に3名を推薦した。最終決定は、他研連からの推薦等との兼ね合いで委員長が決定することを承認した。

(2) 東京大学海洋研究所「研究船」の海洋科学技術センターへの移管問題について(野崎委員)

文部科学省は東京大学海洋研究所に対して研究船を海洋科学技術センターへ移管することを提案したが、同研究所はそれに同意しない旨二週間前に文書で回答した。それに対する文科省の応答文は今夕送られてくる予定であるとの野崎委員の説明の後、種々の討議を行った。そのなかで、この提案は海洋科学の教育と研究の根幹に関わる問題であるにも拘わらず、教育研究を担当する科学者の議論を経ていないため、これを承認することはできないこと、海洋観測は海洋研究の重要な部分であり、船だけを別機関に移すことはデメリットが大きいこと、海洋研究所「研究船」以外の船舶や施設を含めて、今後あるべき姿を然るべき委員会あるいは審議会を設けて検討するのが先決であることなどが指摘された。今後はこれに類したことが度々起こると予想されるので、海洋科学研連も不断に検討を重ね、研連として対応するための基本理念を構築して

おく必要性が強調された。しかし今回は、迅速な行動を起こす必要があるため、原案文を野崎委員と委員長が修正して委員長長声明文を完成させ、文部科学大臣あてに提出することを承認した。

今回は2002年11月26日(火)に開催する予定。

(議事録作成・伊藤絹子)

小惑星表面採集試料の初期分析チーム編成のための第一回分析 competition の結果報告

2002年7月

MUSES-C サンプル分析検討委員会

(委員長・久城育夫東京大学名誉教授)

文部科学省宇宙科学研究所では、将来の惑星探査で重要視されているサンプルリターン技術を習得するための工学試験探査機 MUSES-C を2002年末に打ち上げます。この探査機は近地球型小惑星1998 SF 36から重量数100 mg から 1 g 程度のサンプルを採取して、2007年夏に地球に持ち帰る予定です。

当委員会では、地球に回収される試料の初期分析と、その後の詳細分析に供する試料の管理・配分作業を、宇宙科学研究所の研究者と共に「オールジャパン」体制のチームワークで実施する「MUSES-C 小惑星試料初期分析チーム MASPET (MUSES-C Asteroidal Sample Preliminary Examination Team)」を編成すべく、分析技術 competition を実施致しました。この competition の実施経緯と結果について、以下のようにご報告いたします。

経緯および結果

1999年12月：第一回公募公示

2000年4月：募集締切り(有効応募数：11)

2000年5～8月：各分析分野の国内専門家複数による第一次書類審査(審査通過数：9)

2000年8～10月：一次通過者に2種類の未知試料を配布。自己申告した(1)分析内容およびその精度と確度、(2)必要最小重量、(3)分析に要する期間等に沿って、試料分析と結果の英文レポート作成

2000年12月～2001年2月：分析成果レポート提出

2001年3～10月：各分析分野の国内外専門家複数による第二次審査

2001年11月：分析検討委員会の元に設置された選考委員会による初期分析候補者（グループ）の推薦（推薦グループ数：6）

2002年5月：推薦グループを分析検討委員会承認

模擬試料の分析結果は、第1次審査を経て分析コンクールに参加された全応募グループから提出された報告のうち、出版の承諾を頂けたものについて、宇宙科学研究所の査読付き英文報告書「ISAS Report」特集号に近々まとめて掲載致します。冊子をご希望の方は、下記の連絡先までご一報下さい。

今後、少なくともあと1回のcompetitionを行った後、今回および次回の結果を考慮した上で、最終的なMASPETのメンバー編成を決定する予定です。今回寄せられた関係者各位のご協力に感謝するとともに、今後ともMUSES-Cミッションへのご支援・ご協力をお願い致します。

今後のスケジュール予定

2002年末 > MUSES-C 打ち上げ

2003年 > 第2回初期分析コンクール公募

2005年夏 > 小惑星到着・その場計測・表面試料採取

2005～6年 > 初期分析チームの最終調整・最終審査

2006～7年 > 初期分析全チームによる、初期分析全過程のリハーサル

2007年夏 > 試料回収。初期分析活動開始

なお、本件に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

文部科学省宇宙科学研究所・惑星研究系

（担当：矢野 創宛）

〒229 8510 神奈川県相模原市由野台3 1 1

Tel : 042 759 8197, Fax : 042 759 8457

e-mail : yano@planeta.sci.isas.ac.jp

平成14年度（第24回）沖縄研究奨励賞 推薦応募についてのご協力方お願い

財協協発第101号 平成14年6月10日

財団法人沖縄協会会長 小玉正任

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、本年度の沖縄研究奨励賞は、別紙の沖縄研究奨

励賞規則に基づき、下記の日程により実施いたします。つきましては、適格と認められる候補者をご推薦賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 推薦応募開始：平成14年7月15日（当日消印から有効）
2. 推薦応募締切：平成14年9月30日（当日消印まで有効）
3. 記者発表：平成14年12月10日
4. 贈呈式・受賞記念講演及び祝賀会：平成15年1月16日（那覇市内のパシフィックホテル沖縄で開催）

[応募書類の送付先及びお問い合わせ]

〒100 0013 東京都千代田区霞が関3 6 15

グローリアビル7F（財）沖縄協会「沖縄研究奨励賞」

担当 石坂次郎

Tel : 03 3580 0641, Fax : 03 3597 5854

ホームページ

<http://village.infoweb.ne.jp/~fvfgm/0090/>

e-mail : fvfgm0090@mb.infoweb.ne.jp

平成15年度海洋地球研究船「みらい」 研究課題等の公募について

海洋科学技術センター理事長 平野拓也

拝啓時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。海洋科学技術センターは、平成15年度海洋地球研究船「みらい」の共同利用型運用にあたり、長期観測研究計画に基づいた主要研究課題について、個別研究課題および乗船研究者を募集致します。今回の公募は、平成15年度「みらい」運航計画（資料3）に基づいた、南半球周航航海を含む5つの研究航海が対象となります。応募戴いた研究課題は、「みらい」運用検討委員会（委員長：半田暢彦愛知県立大学教授）において公募課題選定基準（資料5）に基づき選考が行われます。また観測研究で得られたデータ等の成果は、「みらい」を利用して取得されるデータ/サンプル及び成果の取り扱い方針（資料6）に基づき運用されます。つきましては、同封の下記資料をご参照のうえ、貴機関内関係者の方々へご連絡戴き、平成14年7月19日（金）迄に専用の申込書にて奮ってご応募戴きますようお願い申し上げます。尚、乗船される研究者の皆様におかれましては、研究航海で得られた成果について、年1

回開催の「みらい」シンポジウムで必ず発表して戴きます。敬具

記

a)パンフレット：『平成15年度海洋地球研究船「みらい」研究課題の募集』(和・英), b)研究課題申込書一式, c)資料1平成15～17年度「みらい」中期運航計画, d)資料2平成15年度「みらい」航海海域図(和・英), e)資料3平成15年度「みらい」運航計画, f)資料4平成15年度海洋地球研究船「みらい」各研究航海概要一式(和・英), g)資料5公募課題選定基準, h)資料6「みらい」を利用して取得されるデータ/サンプル及び成果の取扱い方釘, i)資料7海洋地球研究船「みらい」共同利用規程
以上

平成15年度海洋地球船「みらい」を利用する研究課題申込書

1) 研究課題申込み

添付申込書は、「みらい」運用検討委員会における選考ならびに各航海の研究計画の作成上の資料となります。複数の航海またはレグに応募される方は、各航海またはレグ毎に申込書をご記入・ご提出下さい。

パンフレット「海洋地球研究船『みらい』研究課題の募集」の「募集要領」をよく読まれたうえで1から15の項目についてご記入下さい。(特に以下の項目については、ご注意下さい。)

- 研究代表者：研究者が複数の場合、当該利用研究に関し課題の代表者としてセンターと打ち合わせのできる研究者として下さい。
- 希望乗船期間：本船の入出港は運航計画より数日ずれることがございます。変更がある場合スケジュールをHPでご案内致しますのでご注意ください。
- 研究課題名：当該利用研究の内容を具体的に表すものを簡潔に記入して下さい。
- 乗船希望者：研究及び観測補助者の乗船希望についても記入して下さい。
- 航海番号：運航計画や各研究航海概要等の資料の航海番号を記入して下さい。
- 研究計画の目的：記入された内容はそのまま選考時に利用しますので220字以内でご記入下さい。
- 使用予定の「みらい」本船観測機器：「みらい」には別紙のような各種観測機器があります。ご

使用を予定される機器に をして戴き、また申込書に主な使用機器の名称を記入して下さい。

- 申込み方法：必要事項を記入された申込書を下記までご郵送下さい。メール(ファイル添付も含め)での送付は文字化け等のおそれがありますので、申込は必ずこの申込書をご使用下さるようお願い致します。

郵送及び問い合わせ先：

〒237 0061 神奈川県横須賀市夏島町2 15
海洋科学技術センター研究業務部計画調整課
担当者 小池・佐々木
Tel: 0468 67 9883, Fax: 0468 69 0812
e-mail: mirakobo@jamstec.go.jp

- 申込期限：平成14年7月19日(金) 消印有効

- 審査：審査及び採否等は、「みらい」運用検討委員会において行い、最終的には当センター理事会で決定します。

- 採否の決定：平成14年9月下旬の予定。研究代表者の方に通知致します。

Chemical Abstracts 利用法講習会

主催：化学情報協会

Chemical Abstracts (CA) のCD-ROM版(CA on CD)の利用方法を中心に冊子体 Chemical Abstractsの構成、特徴などもあわせて説明します。普段図書館や研究室でCAをご利用の研究者、教官の方や司書の方に最適です。

日時：平成14年9月3日(火) 13:30～16:00 大阪会場
平成14年9月12日(木) 13:30～16:00 東京会場
会場：東京会場：中居ビル6F

(東京都文京区本駒込6 25 4)

大阪会場：千里ライフサイエンスセンタービル
10F(大阪府豊中市新千里東町1 4 2)

- 内容：1. Chemical Abstracts の構成
2. Chemical Abstracts の各索引の特徴
3. CA on CD の概要および使い方

受講料：無料

参加申込締切：定員(12名)になり次第締切

申し込み先：

〒113 0021 東京都文京区本駒込6 25 4
中居ビル (社)化学情報協会 講習会係
Tel: 03 5978 3621

第25回極域気水圏シンポジウム開催のご案内

平成14年4月24日

国立極地研究所では毎年極域に関わる研究をテーマとしたシンポジウムを開催しております。このうちの
大気、雪氷、海洋圏の研究に関する極域気水圏シンポジウムを本年も開催することとなりました。

現在南極地域では、日本南極地域観測隊による短期間の集中観測として5ヵ年計画で「極域大気 雪氷 海洋圏における環境変動機構に関する研究」が終了し、新たに「南極域からみた地球規模環境変化の総合研究」がスタートしました。また長期間の観測を主目的とした「地球環境変動に伴う大気・氷床・海洋のモニタリング」、衛星データによる極域地球環境変動のモニタリング」が継続して実施されています。国内ではこれまで得られた観測データ、試料等による研究が進展しています。特にドームふじ観測拠点で得られた氷床コア、大気中及び雪氷中の微量成分分析データ等を利用した研究からさまざまな成果が得られています。一方北極地域では、スバルバル、グリーンランド、カナダ、シベリア等多くの地域において、大気、雪氷、海洋に関する多岐にわたる観測・研究が行われています。

これまでの諸観測から得られた資料の解析結果はもとより、南北両極・寒冷域を主な対象とした大気科学、雪氷学、海洋学に関する研究成果、研究展望などを議論するシンポジウムを下記のとおり開催いたします。広く発表を受け付けておりますので、ご応募くださるようご案内申し上げます。

日時：2002年11月20日(水)、21日(木)

会場：国立極地研究所 6階講堂

申込締切：2002年9月24日(火) 必着

問合せ先：

国立極地研究所 本山秀明、岡崎美紀

〒173 8515 東京都板橋区加賀1 9 10

e-mail : icesamp@pmg.nipr.ac.jp

Tel : 03 3962 7125 , 03 3962 5517 ,

Fax : 03 3962 5719

地熱に関する公開セミナー開催のご案内

日本地熱学会

開催の経緯：地熱エネルギーは、再生可能エネルギーの中でも最もCO₂排出量が少なく、安定電源としての価値が高いエネルギー源ですが、今日では太陽エネルギーや風力エネルギーのように脚光を浴びることなく、一般に知られていないのが現状です。地熱の分野でも研究者や技術者の地道な努力により、技術革新や地球科学的意味での発見が行われていますが、その地道さ故に大々的に報道される機会がほとんどありませんでした。このような現状を危惧した日本地熱学会では、一般の人に少しでも地熱について知ってもらおうと、科学・技術・環境の側面から地熱を紹介する一般向け公開セミナーの開催を決定しました。

目的：地熱資源の科学・技術・環境の側面といった一連の講演を通して、本学会を中心とした科学的な研究活動が皆さんの生活にどう結びついているかということ、理解していただくことを第一の目的としています。またクリーンで安定したエネルギーとしての魅力を一般の多くの方々に理解していただき、21世紀の日本のエネルギーを考える上での参考としていただくことも目的としています。現在政府では自然エネルギー促進法の導入が検討されていますが、これが制定されれば、電力消費者がエネルギー源を選んで購入できることとなります。国民がクリーンなエネルギー源を選ぶ時代は、もうすぐ目の前に来ています。

タウンフォーラム地熱

—21世紀の日本のエネルギー—

開催日時：平成14年11月23日(土) 13:00～16:00

会場：産業技術総合研究所 臨海副都心センター

(<http://unit.aist.go.jp/waterfront/jp/>)

東京都江東区青海二丁目 新橋から「ゆりかもめ」で「テレコムセンター」下車、徒歩2分(日本科学未来館の手前)

対象：一般市民(高校生以上を目安としていますが、それよりお若い方も歓迎いたします)

会費：無料

内容：(一般市民の方にも十分理解いただける内容とします)

ビデオ上映：13:00～14:00(地熱資源の利用と開発の例、世界の地熱地帯の紹介他)

講演：14：00～16：00

- (1) 地熱資源とは（火山の科学から発電・熱利用などの利用面まで）講師：江原幸雄（九州大学）
- (2) 地熱資源を探す（地球物理，地球化学的なテクノロジー）講師：田籠功一（新エネルギー・産業技術総合開発機構），上田晃（三菱マテリアル㈱）
- (3) 地中熱の利用（地下利用のヒートポンプによる冷暖房技術）講師：高杉真司（地熱エンジニアリング㈱）
- (4) 環境にやさしい地熱（地熱利用によるCO₂排出量削減効果など）講師：村岡洋文（産業技術総合研究所）
- (5) 質疑

日本地熱学会ホームページ URL

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/grsj/>

問い合わせ先（日本地熱学会行事委員長）

〒103 0016 東京都中央区日本橋小網町8 4
東北地熱エネルギー㈱地熱開発部 花野峰行
Tel：03 3667 6180，Fax：03 3669 1972
e-mail：hananom@jmc.co.jp

東京大学海洋研究所教官公募

平成14年5月22日
東京大学海洋研究所所長 小池勲夫

本研究所では，下記により教官を公募いたしますので，周知方よろしくお願い申し上げます。

記

- 1．採用人員：海洋化学部門海洋無機化学分野助教授または講師1名
- 2．公募の趣旨：本所海洋化学部門海洋無機化学分野では，各種無機元素，安定および放射性同位体の分析を主な手法として海洋を中心とした地球表層における物質循環とその地球環境変化に果たす役割に関する研究を行っています。今回の公募では，研究船による海洋観測を通じて，化学トレーサー，化学種の存在形と機能，海水・粒状物質相互作用，超微量重金属や溶存気体の海洋地球化学，大気・海洋・海底間の物質フラックスなどについて，最前線の研究を強力に推進することのできる方を希望します。ま

た，大学院新領域創成科学研究科の協力講座の担当教官として教育にも参加していただきます。

3．提出書類：

- (1) 履歴書（研究歴を含む）
- (2) 研究業績リスト
- (3) 主要論文の別刷5編程度（コピーでも可）
- (4) これまでの研究概要と将来の研究に対する抱負（各1,000字程度）
- (5) 推薦書1通，または参考意見の述べられる方（2名）とその連絡先

4．公募締切：平成14年8月30日(金) 必着

5．書類送付先：

〒164 8639 東京都中野区南台1 15 1
東京大学海洋研究所 小池勲夫所長宛

（応募書類の郵送は簡易書留とし，封筒の表に「海洋無機化学分野応募書類」と朱書きのこと。なお，応募書類はとくに要望がないかぎり，審査後も返送致しません）

6．海洋化学部門の現在の教官構成：

海洋無機化学分野

野崎義行教授，（本公募），小畑元助手

海洋生元素動態分野

小池勲夫教授，小川浩史助教授，宮島利宏助手
関連教官（海洋環境研究センター）

佐野有司教授，高畑直人助手

関連教官（国際共同研究センター）

植松光夫助教授

問い合わせ先：野崎義行

Tel：03 5351 6451（ダイヤルイン）

e-mail：nozaki@ori.u-tokyo.ac.jp

九州大学大学院物質環境科学講座教官公募

平成14年5月13日

九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門
物質循環科学講座担当教授候補者選考委員会
委員長 中田正夫

このたび，九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門の物質循環科学講座担当教授候補者を下記の要領で募集することになりました。つきましては，関係者への周知について宜しくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。なお，当部門は近い将来6講座から4講座への転換を計画しており，当該講座の地球

惑星物質科学専門分野は太陽惑星系物質科学（仮称）講座の中の4専門分野のひとつとして再編される予定です。

記

1. 職種・人員：物質循環科学講座担当教授1名
2. 専門分野：地球惑星物質科学（地球および惑星内部物質の高温・高圧条件下での物性を主に実験的手法によって研究し、かつ教育に熱意のある方を希望）
3. 着任時期：平成15年4月
4. 提出書類：
 - (1) 履歴書
 - (2) これまでの研究概要（A4用紙2枚以内）
 - (3) 研究業績リスト〔原著論文（査読の有無）、総説、報告書、著書に区分〕
 - (4) 主要論文の別刷3編（研究業績リストに印を付す）
 - (5) 研究・教育に対する抱負（A4用紙2枚以内）
 - (6) 応募者を熟知し、意見を聞ける方2名の氏名とその連絡先並びに応募者との関係
5. 公募締切：平成14年9月13日（金）（必着）
6. 書類送付先および問い合わせ先：
〒812 8581 福岡市東区箱崎6 10 1
九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門
物質循環科学講座担当教授候補者選考委員会
委員長 中田正夫
Tel：092 642 2515（ダイヤルイン）、
Fax：092 642 2684

e-mail：mnakada@geo.kyushu-u.ac.jp

7. その他：
提出書類のうち、(4)以外は全てA4用紙を使用すること。
封筒に「応募書類在中」と朱書し、簡易書留で郵送のこと。

徳島大学総合科学部環境化学教員公募

- 募集人員：教授1名
募集分野：環境化学（環境中の無機及び有機化合物の分析・挙動・リスク評価、エネルギー、及び環境修復・再生分野のいずれかの分野）
着任時期：平成15年4月1日
提出書類：(1)履歴書（写真貼付）、(2)研究業績リストと研究論文別刷りまたは写し、(3)教育業績書、(4)大学教員としての教育についての抱負（約1,000字）、(5)これまでの研究概要と着任後の研究計画（約2,000字）
公募締切：平成14年9月13日（金）（必着）
書類提出先：
〒770 8502 徳島市南常三島1 1
徳島大学総務部人事課常三島事務室あて
郵送の場合は、必ず「書留」にし、封筒の表に「環境化学教員応募」と朱書すること。
問合せ先：徳島大学総務部人事課第一任用係
Tel：088 656 8601、Fax：088 656 7019
e-mail：jnniny1k@jim.tokushima-u.ac.jp

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

皆様の情報・原稿をお待ちしています。地球化学に関連した研究集会，シンポジウムの案内，人材募集，書評，研究機関の紹介など何でも結構です。編集の都合上，電子メール，フロッピー（マックもしくは Dos/V いずれでも結構です）での原稿を歓迎いたしますので，ご協力の程よろしく願いたします。次号の発行は2002年12月初旬頃を予定しています。ニュース原稿は10月下旬までにお送りいただくよう，願いたします。また，ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者

米田成一

〒169 0073 東京都新宿区百人町3 23 1
国立科学博物館理工学研究部
Tel : 03 3364 7142 , Fax : 03 3364 7104 ,
e-mail : s-yoneda@kahaku.go.jp

高橋和也

〒351 0198 埼玉県和光市広沢2 1
理化学研究所加速器基盤研究部

小林貴之（ホームページ）

〒156 8550 東京都世田谷区桜上水3 25 40
日本大学文理学部